

3 環境に関する市民・事業者意識調査 集計結果

調査の概要

調査期間

平成25年6月4日～6月30日

調査方法

- ・本調査は無記名式のアンケート調査により実施しました。
- ・アンケート調査票は郵送により送付/回収しました。
- ・アンケートの回答方式は基本的に選択式で、一部に記述式を含みます。

アンケート送付先の抽出方法

市民意識調査 : 年代別及び住居地域別(下記参照)の層化抽出

事業者意識調査 : 業種等を考慮した抽出

居住地域区分

地区	地域区分
NT中央	小倉台、大塚、牧の木戸、木刈、内野、武西学園台、原山、高花、戸神台、中央北、中央南
NT印西牧の原	東の原、西の原、牧の原、原、滝野
木下・大森	木下、竹袋、別所、宗甫、木下東、木下南、平岡、大森、鹿黒、亀成、発作、相嶋、浅間前、鹿黒南
小林	小林、小林浅間、小林大門下、小林北
永治	浦部、浦部村新田、白幡、浦幡新田、高西新田、小倉、和泉
船穂	武西、戸神、船尾、松崎、松崎台、結縁寺、多々羅田
草深	草深、泉
六合	瀬戸、山田、吉高、萩原、松虫、平賀、平賀学園台
宗像	岩戸、師戸、鎌苅、大廻、造谷、吉田、(つくりや台)
印旛日本医大	美瀬、若萩、舞姫
本郷	中根、荒野、角田、竜腹寺、滝、物木、笠神、(みどり台)
埜原	行徳、川向、下曾根、中、萩埜、桜野、押付、佐野屋、和泉屋、甚兵衛、松木、中田切、下井、長門屋、酒直ト杭、安食ト杭、将監、本埜小林

アンケート集計方法

- ・択一式の設問では、各選択肢の選択割合(各選択肢の選択数 ÷ 回答数)及び無回答の割合(無回答数 ÷ 回答数)を集計しました。
- ・複数選択式の設問では、各選択肢の選択数及び無回答の数を集計しました。
なお、複数選択式の設問では、回答数と回答者数は一致しません。
- ・本書では回答割合を百分率で小数第1位まで表示(小数第2位を四捨五入)しているため、各選択肢の合計が100%にならない場合があります。
- ・居住地域区分を、新市街地(NT中央、NT印西牧の原、印旛日本医大)、市街地・集落混在(木下・大森、小林、六合)、集落(永治、船穂、草深、宗像、本郷、埜原)に分け、居住地区としています。

アンケート回収率

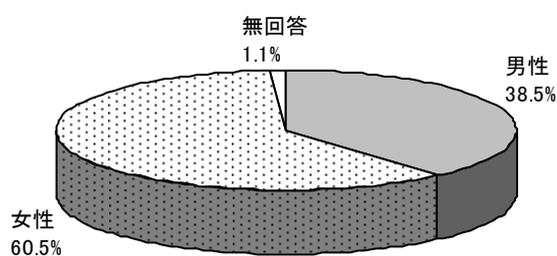
	市民	事業者
発送数	2,000	200
回収数	655	71
回収率	32.8%	35.5%

市民意識調査の結果

1 回答者の属性

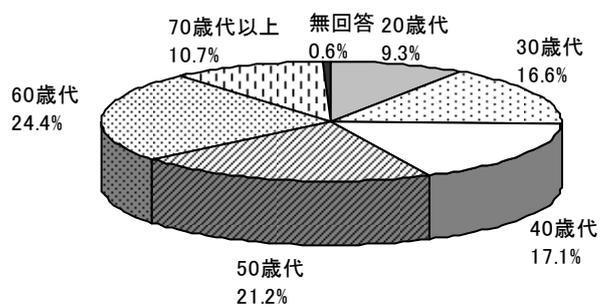
問1-1 あなたの性別はどちらですか。(1つ選択/2選択肢)

回答数 648



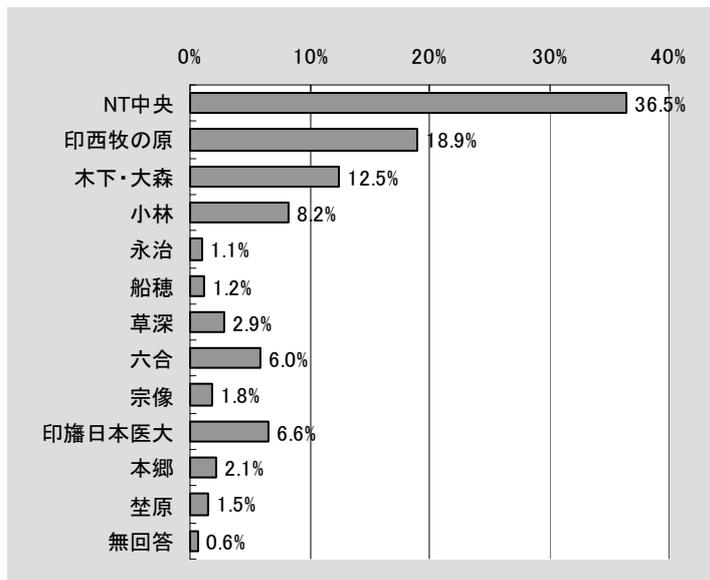
問1-2 あなたの年齢は何歳ですか。(1つ選択/6選択肢)

回答数 651



問1-3 お住まいの地区はどこですか。(1つ選択/12選択肢)

回答数 651



回答者の性別は、女性が60.5%、男性が38.5%でした。

年齢層は、50～60歳代の回答が多く、全体の約45%を占めました。

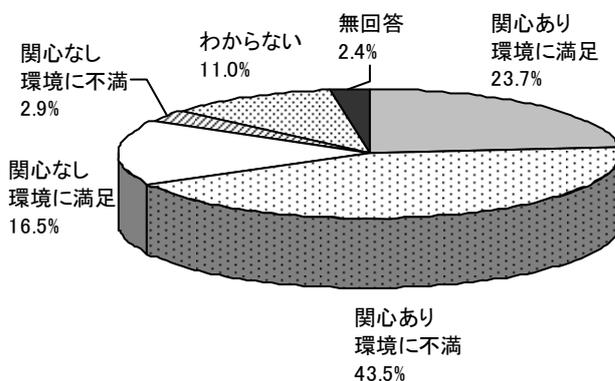
居住地域は人口分布に概ね比例した結果となり、千葉ニュータウン地区が多い点はこれまでの調査と同様の結果でした。

2 あなたの環境問題に対する認識について

問2-1 あなたは環境問題に関心がありますか。

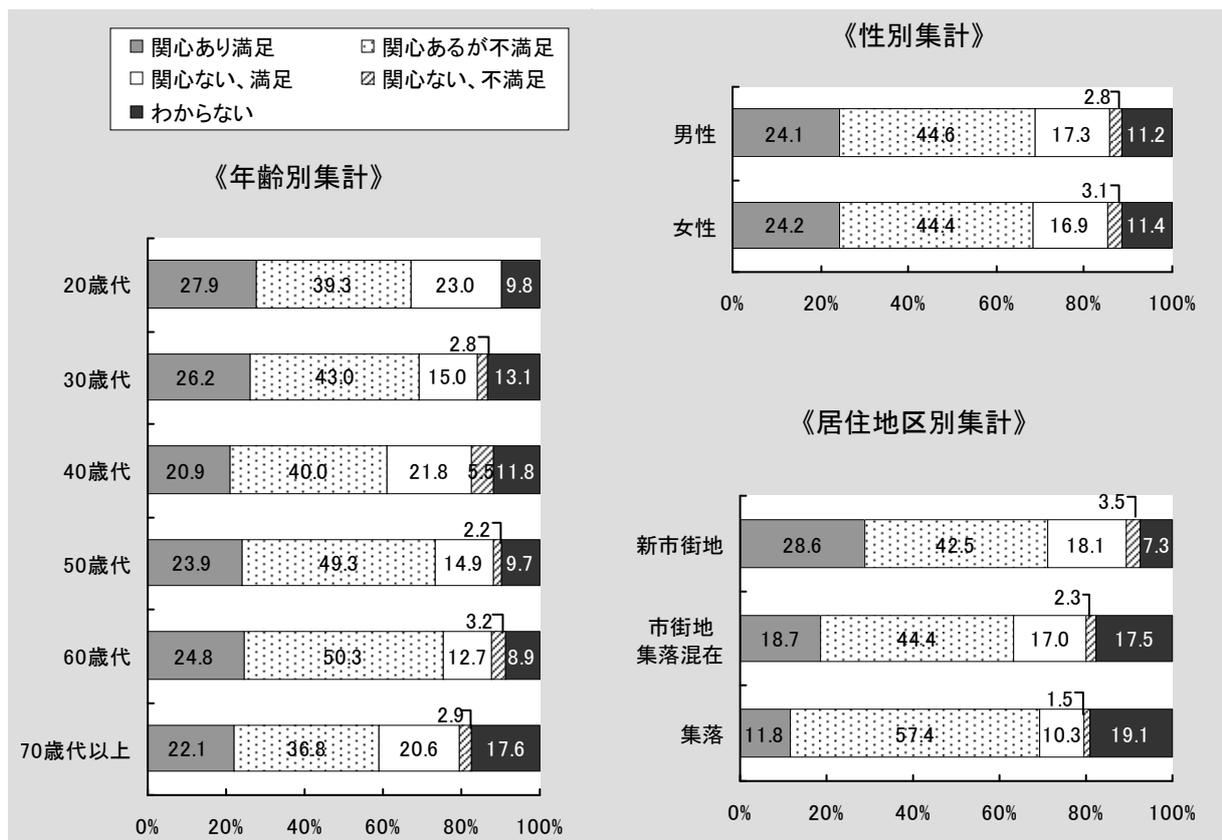
また、市内の環境についてどのように感じていますか。(1つ選択/5選択肢)

回答数 639



「環境問題に関心がある」と答えた人の割合は67.2%と高い結果でしたが、その中で市内の環境に満足してないと回答した人は43.5%で、満足している人(23.7%)を上回っていました。環境問題に関心がないと回答した人も含めると、市内の環境に「満足している」人は40.2%、「満足していない」人は46.4%で、満足していない人の割合が高い結果でした。

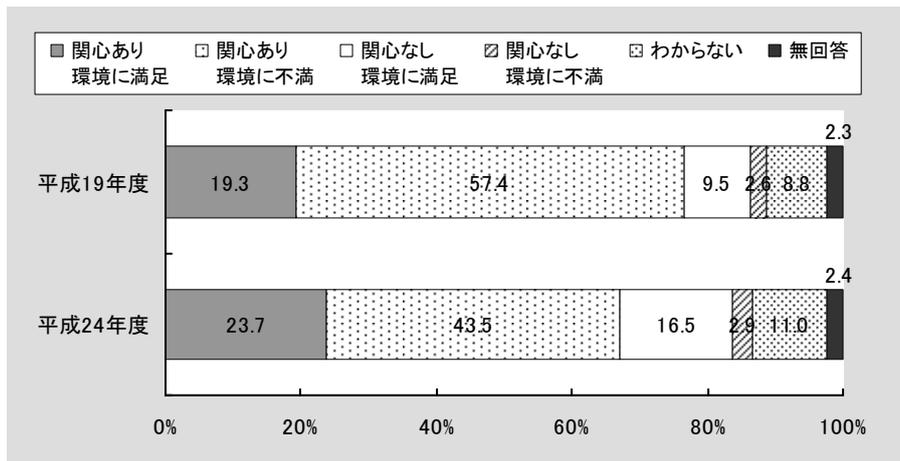
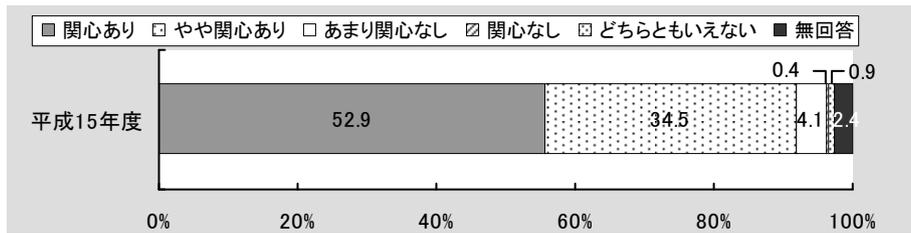
【性別・年齢別・居住区別集計】



年齢別の集計では、50～60代は比較的環境に関心がある人が多い傾向でした。最も環境に満足しているのは20代でした。

居住区別に見ると、新市街地は環境に満足している人が多く、集落は少ない結果でした。性別では、明確な傾向はみられませんでした。

【経年変化】



経年変化では、計画策定時の平成 15 年度、改訂時の平成 19 年度、目標年度の平成 24 年度で比較をしています。

平成 15 年度は、関心の有無のみの設問で、環境問題に関心のない人の割合は 4.5%でしたが、平成 19 年度は 12.1%、平成 24 年度は 19.4%でした。

環境に満足している人の割合は、平成 24 年度は 40.2%で、平成 19 年度（28.8%）を上回っており、満足の割合が増加していました。

問2-2 問2-1で「市内の環境に満足している」または「満足していない」を選択した理由や場所などを自由にご記入ください。

回答数 469

	主な内容	回答数	具体的な場所
満足している理由	里山・田畑等の緑、自然の豊かさ、自然とのふれあい	111	NT印西牧の原、NT中央、六合、埜原、印旛沼
	花や緑ある公園、整備された公園	98	北総花の丘公園、多田羅公園、大塚前公園など
	整備・管理された街並み	39	NT内、木刈
	生活利便施設・商業施設の充実	17	NT中央周辺
	閑静、のどかな環境	12	
	市民による環境づくり、道にゴミがあまり落ちていない	10	平賀
	空気・空・星がきれい	7	別所、旧印旛村地域
	除染対応	2	
	交通の便	1	
満足していない理由	遺跡・建造物などの文化遺産	1	
	道路・公園・空地の管理不足(雑草、清掃等)	75	国道、市道、農道、公園、UR所有地
	開発による自然の減少・環境悪化	58	牧の原、草深、滝野、NT21地区北側用地
	ポイ捨て・不法投棄	34	旧印旛村地域、草深地区、六合地区、鳴沢・平岡、高西新田
	交通公害(渋滞、騒音、振動、排気ガス、安全面等)	29	国道464号、NT内など
	道路整備の不足(信号機、舗装、水捌け、歩道整備等)	28	木下、原山など
	放射能の不安(土壌の放置・除染の遅れ、情報不足)	25	
	モラルの低下(公園などのペットの糞、落書きなど)	22	万葉公園、中央駅前の橋、大塚前公園、ひょうたん山公園
	公園の設備の不足(ベンチ、遊具、トイレ)	19	六合地区、原など
	開発による野生生物への影響(生態系への配慮)	17	草深地区、木下・大森地区など
	調整池・公園内の池・沼・小川の水質悪化、悪臭、ごみ	16	松虫姫公園、袖川防災調節池、草深公園、印旛沼など
	街路灯・防犯灯の不足	15	
	街並み・景観整備の不足	14	
	生活利便施設の不足(商業施設、病院等)	11	
	畜舎の悪臭、農作業に伴う野焼き	10	
	上下水道の不足(下水の悪臭、水道管の整備)	10	主にNT外、木下小坂下、原地区
	風害(高層マンションの風害、砂埃、倒木、落葉等)	12	戸神、戸神台、大塚前公園など
	ごみ焼却施設(焼却灰、排煙、立地・移転)	9	
	害虫の駆除(街路樹、公園、道路)	9	
	鳥害	9	北総花の丘公園、牧の原公園、NT駅前
	ゴミ収集関係、ごみ出しマナー	9	
	公共交通への不満(高額運賃、バス運行本数)	8	
	開発・活性化の遅れや地域格差	7	NT内とNT外の格差
	外来動物や有害獣等の対策(ミドリガメ、イノシシ)	6	
	行政への意見(市の長期的施策、太陽光発電普及)	7	
	歩きタバコ	3	
	杉花粉	2	滝
	休耕田・耕作放棄地の増加	2	
	薬剤の散布(除草剤、防虫剤)	1	

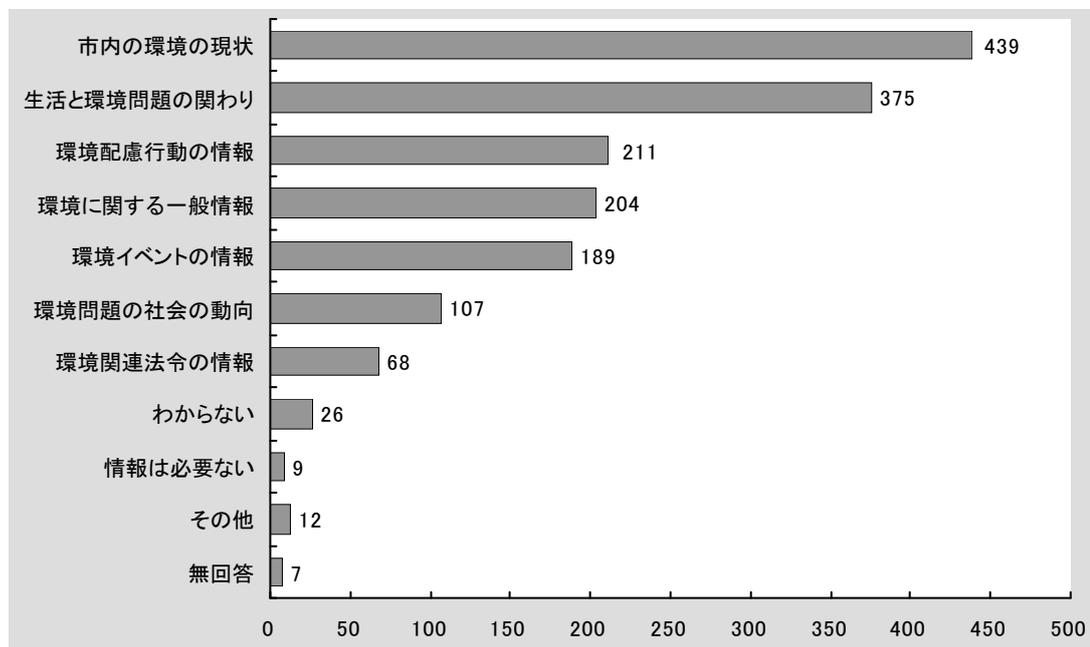
「満足している」理由としては、里山や公園など、身近な自然とのふれあいに関する項目が多くあげられた一方、「満足していない」理由では開発による自然の減少があげられていました。印西市は自然が多く残されている環境が支持されていますが、その減少も懸念されていることがわかります。

また、道路や公園などの管理、ポイ捨てや不法投棄についても「満足していない」という意見が多かったほか、近年の大型商業施設の出店に伴う渋滞など、交通に関する理由も多くみられました。

問2-3 あなたが環境についてもっと関心を深めるためには、どのような情報が必要と考えますか。

(3つまで選択/10選択肢)

回答数 1,640 (648人)



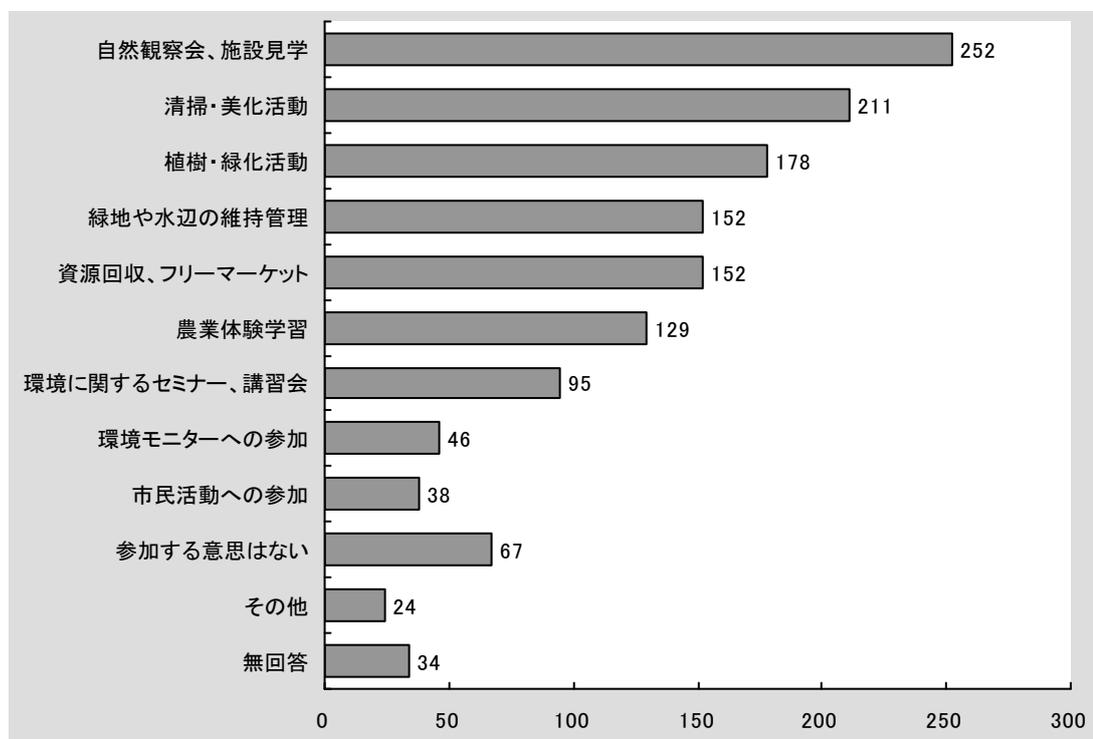
《 その他の主な意見 》

- ・過去から現在の経年的なデータ比較
 - ・環境を守ることによるメリット
 - ・印西市の環境に対する取組の方針
 - ・事実情報、正しい情報
 - ・良い環境や美しい環境の分布
 - ・放射線量や再生可能エネルギー等の情報
 - ・世界の先進的な市も含めた事例
- など

「市内の環境の現状に関する情報」や「日常生活と環境問題の関わりがわかる情報」を必要と考える人が多く、市内の環境や家庭に関わる環境問題など身近な情報が求められています。

問2-4 あなたは、印西市の環境保全に関するイベントや活動などで、今後取り組みたいものはありますか。（3つまで選択／11選択肢）

回答数 1,344（621人）



《 その他の主な意見 》

- ・自然観察や撮影会など楽しんで参加できるもの
 - ・里山の活用、生き物の保護
 - ・クリーンセンター
 - ・子供向けの自転車の交通ルールに関するイベント
 - ・自分の住まいの回りのみでなく、少し範囲を広げてのゴミ0運動
 - ・高齢、体力、仕事などの理由で参加できない
 - ・参加したくない
- など

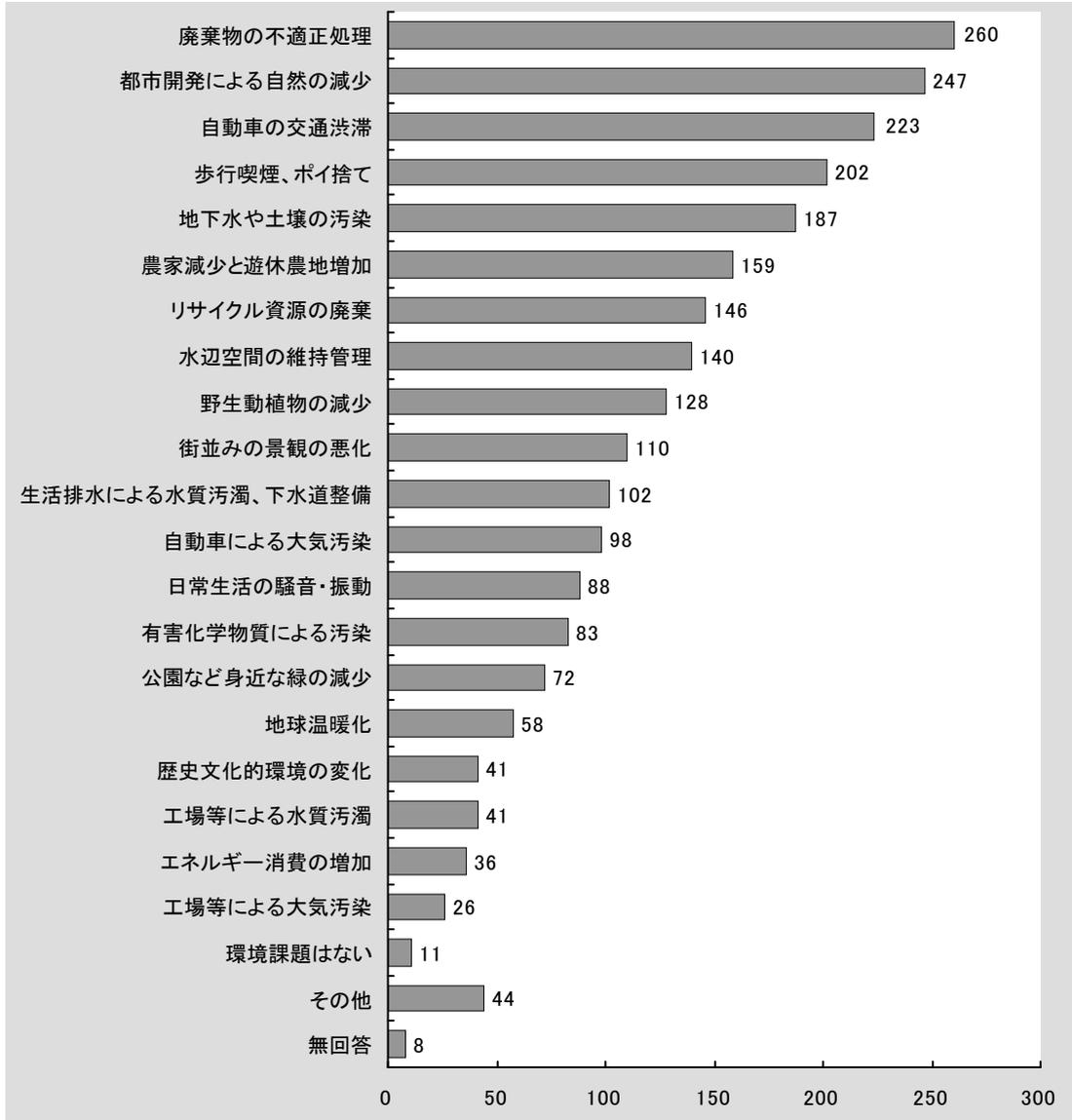
「自然観察会、施設見学」が最も多く、楽しみながら身近な環境について学べる場が求められています。また「清掃活動や美化活動」はゴミゼロ運動やクリーン印西推進運動などが活発に行われていることから、取り組みたいという意見が多いものと考えられます。

一方、「環境モニター（環境家計簿の提出など）」や「市民活動（NPO など）」への参加意欲は低い結果となりました。

3 市内の環境について

問3-1 現在、あなたが感じている印西市が早急に取組みを進めるべき環境課題はなんですか。
(複数選択/22選択肢)

回答数 2,502 (647人)



《 その他の主な意見 》

意見の概要	意見数
原発事故及び放射能汚染に関する調査・対策(除染)	10
ペットのマナー(鳴き声、糞の後始末)	3
中央駅前クリーンセンターの移転	3
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・農家によるゴミ等の焼却 ・古いアスファルト道路修理(騒音原因) ・水路の整備(危険な場所が多い) ・公共交通機関の拡充 ・遊休農地の市民への開放 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険運転や駐車を取り締まり ・学校や病院の充実 ・買物難民の対策 ・有害鳥獣対策(ムクドリやイノシシなど) ・砂や土埃の被害

印西市が早急に取り組むべき環境課題として、「不法投棄など廃棄物の不適正処理」が最も多く、次いで「都市開発による自然の減少」、「自動車の交通渋滞」の回答が多い結果でした。

不法投棄やポイ捨てに関する問題、里山などの自然環境の保全に関する問題は、過年度から意見が多い課題です。

また、自動車の交通渋滞は過去と比較すると回答が増加しており、対策を求める声が高まっています。

【性別・年齢別・居住区別集計】

		1位	2位	3位
性別	男性	不法投棄など廃棄物問題 (46.8%)	都市開発による自然の減少 (44.0%)	歩行喫煙・ポイ捨て (36.4%)
	女性	不法投棄など廃棄物問題 (36.3%)	都市開発による自然の減少 (34.8%)	自動車の交通渋滞 (34.5%)
年齢別	20歳代	都市開発による自然の減少 (41.0%)	自動車の交通渋滞 (37.7%)	歩行喫煙・ポイ捨て (29.5%)
	30歳代	自動車の交通渋滞 (41.3%)	歩行喫煙・ポイ捨て (39.4%)	不法投棄など廃棄物問題 (33.0%)
	40歳代	自動車の交通渋滞 (45.9%)	都市開発による自然の減少 (44.1%)	不法投棄など廃棄物問題 (39.6%)
	50歳代	不法投棄など廃棄物問題 (51.4%)	都市開発による自然の減少 (38.2%)	自動車の交通渋滞 (28.3%)
	60歳代	不法投棄など廃棄物問題 (40.2%)	都市開発による自然の減少 (37.0%)	地下水や土壌の汚染 (36.2%)
	70歳代以上	都市開発による自然の減少 (47.1%)	不法投棄など廃棄物問題 (41.2%)	地下水や土壌の汚染 (38.2%)
居住区別	新市街地	自動車の交通渋滞 (41.3%)	都市開発による自然の減少 (40.5%)	不法投棄など廃棄物問題 (33.8%)
	市街地・集落混在	不法投棄など廃棄物問題 (48.8%)	都市開発による自然の減少 (36.0%)	農家の減少・遊休農地増加 (32.0%)
	集落	不法投棄など廃棄物問題 (57.1%)	地下水や土壌の汚染 (47.1%)	農家の減少・遊休農地増加 (41.1%)

性別では、1位及び2位は同じでしたが、3位は男性で「歩行喫煙・ポイ捨て」、女性で「自動車の交通渋滞」となっていました。

年齢別では、20～40歳代は「自動車の交通渋滞」が多く、50～70歳代以上は「不法投棄など廃棄物の不適正処理」、「都市開発による自然の減少」が多くなっていました。また、20～30代では「歩行喫煙・ポイ捨て」、60～70歳代以上では「地下水や土壌の汚染」が多かったことが他の年齢とは異なっていました。

居住区別では、新市街地では1位が「自動車の交通渋滞」であったのに対し、市街地・集落混在及び集落では1位が「不法投棄など廃棄物の不適正処理」、3位が「農家の減少・遊休農地の増加」となり、地域性が明確となっていました。

【経年変化】

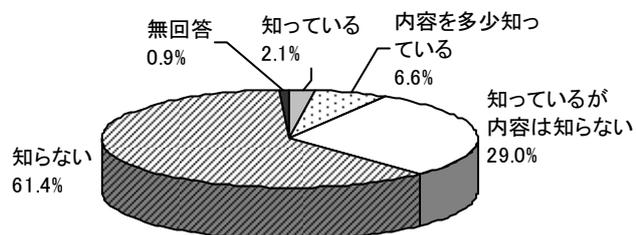
	1位	2位	3位
平成 15 年度	不法投棄・ポイ捨て (40.9%)	河川水質の浄化 (32.9%)	里山の保全・活用 (25.1%)
平成 19 年度	不法投棄など廃棄物問題 (40.8%)	歩行喫煙・ポイ捨て (31.2%)	都市開発による自然の減少 (29.4%)
平成 24 年度	不法投棄など廃棄物問題 (40.2%)	都市開発による自然の減少 (38.2%)	自動車の交通渋滞 (34.5%)

設問項目が年度により異なっていますが、1位は全て不法投棄に関する項目でした。平成 19 年度、平成 24 年度は「都市開発による自然の減少」も多く、「自動車の交通渋滞」が上位に入っているのは平成 24 年度のみであることから、過去より問題意識が高まっていることがわかります。

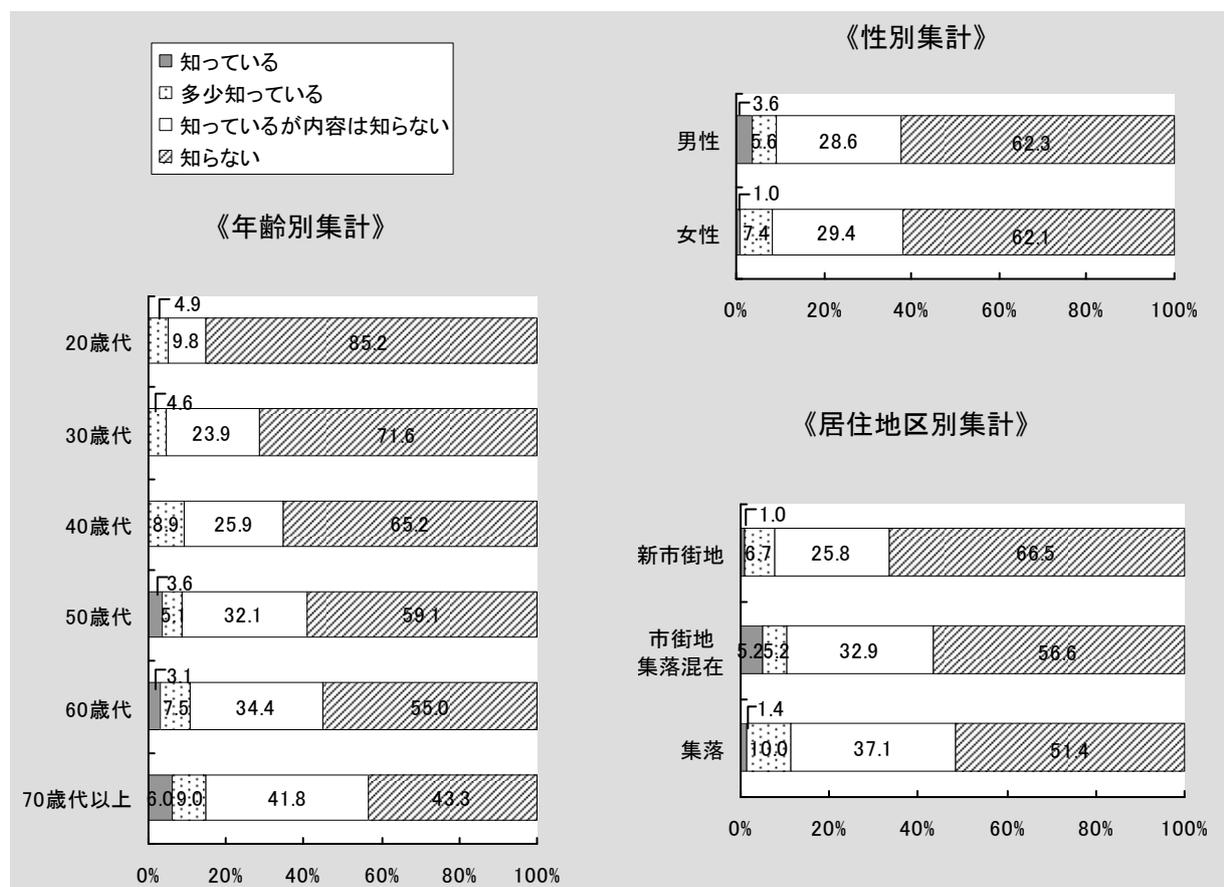
4 印西市環境基本計画について

問4-1 あなたは、「印西市環境基本計画」をご存知ですか。（1つ選択／4選択肢）

回答数 649



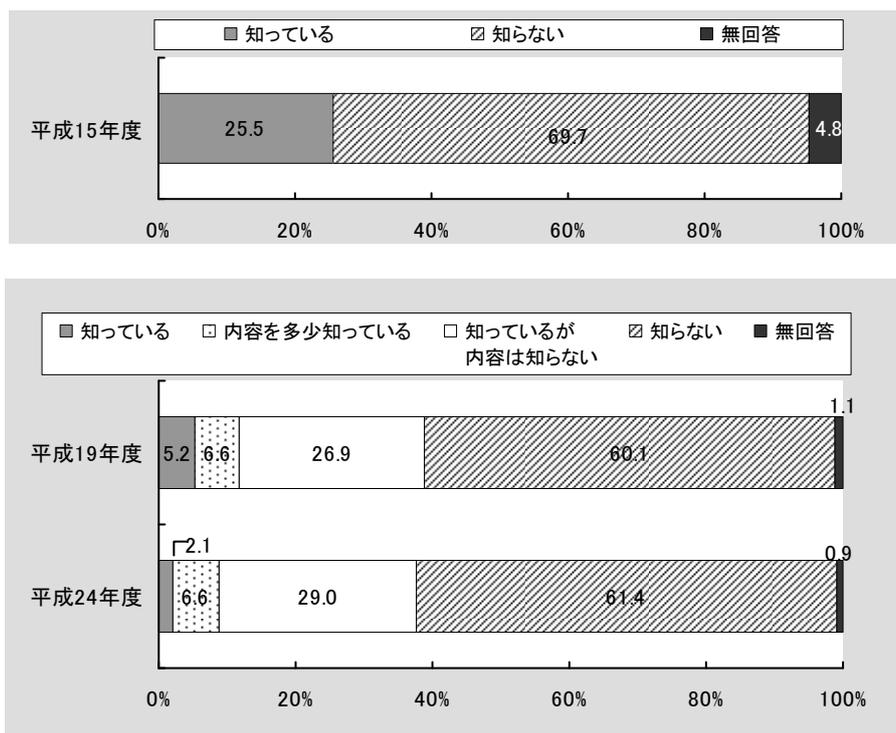
【性別・年齢別・居住区別集計】



環境基本計画の認知状況は、「計画のことは知っている」、「計画の内容を多少知っている」、「計画は知っているが、内容はあまり知らない」の合計が37.7%となり、「知らない」と答えた人は61.4%でした。

年齢別では、若い年齢ほど環境基本計画を「知らない」人が多くなっていました。また居住区別でも、新市街地では「知らない」の回答が多かったことから、若い世代の多い新市街地で特に計画の認知度が低いことがわかりました。性別では、明確な傾向はみられませんでした。

【経年変化】

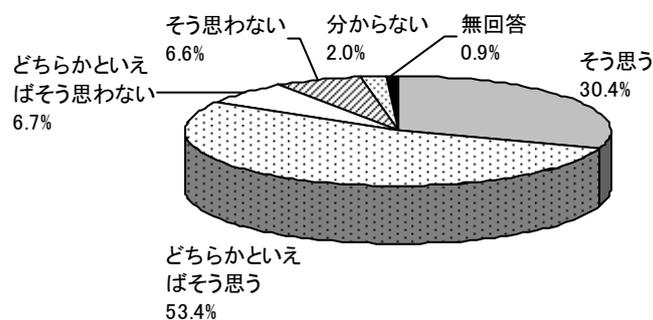


平成 19 年度及び平成 24 年度を比較すると「知っている」割合（「知っている」「内容を多少知っている」「知っているが内容は知らない」の合計）に大きな違いはありませんが、平成 15 年度からは「知っている」と回答した人の割合が増加していました。

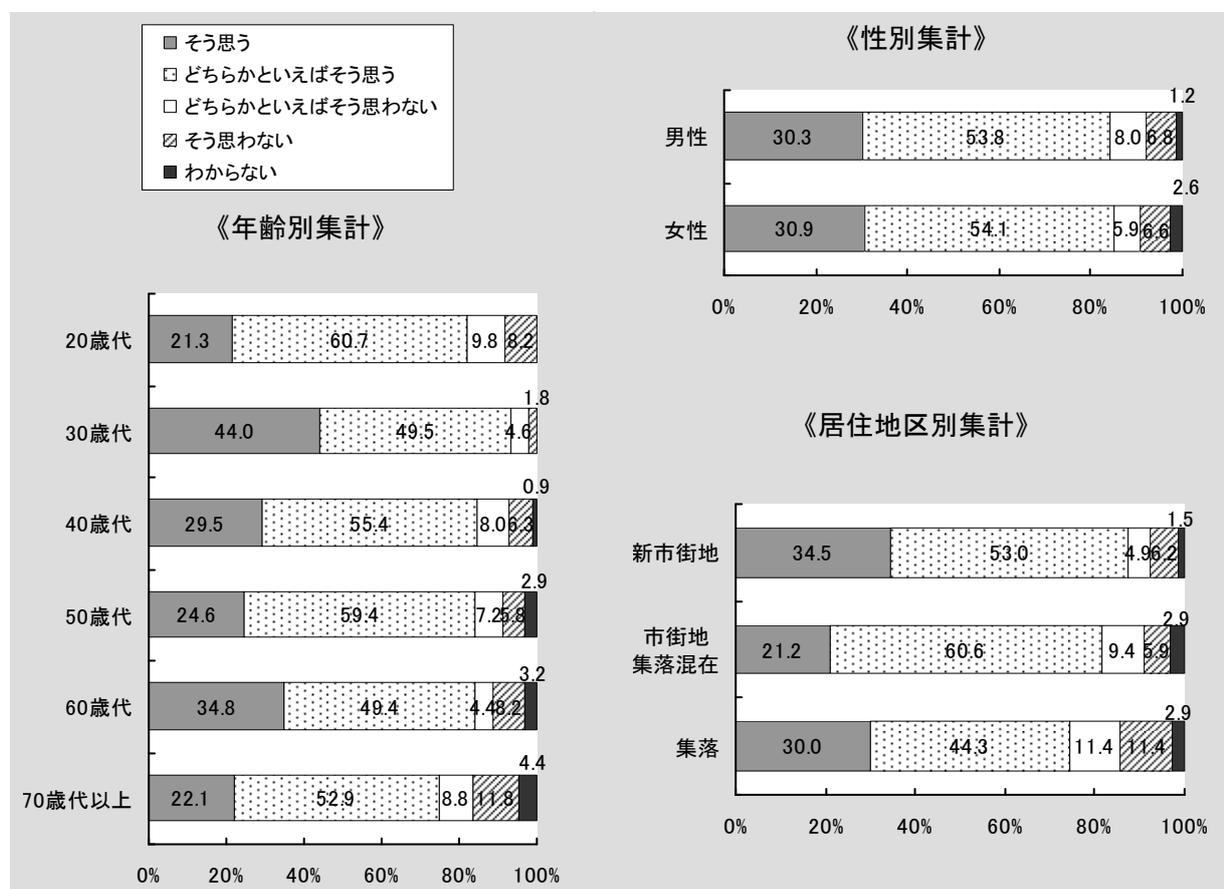
問4-2 印西市の環境についてどう考えていますか。(1つ選択/5選択肢)

(ア) 印西市は自然が保全され、「自然を身近に感じられるまち」である

回答数 649



【性別・年齢別・居住区別集計】



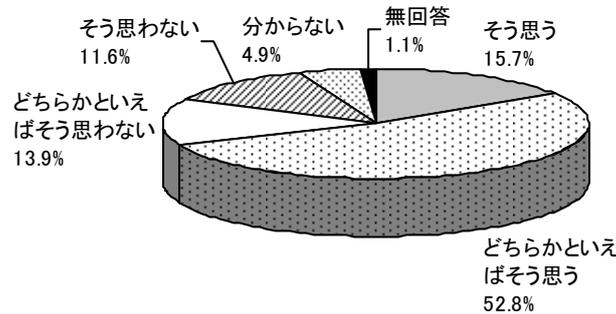
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が83.8%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(13.3%)を上回りました。

年齢別では、20～60歳代は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80%を超えていますが、70歳以上は75%でした。

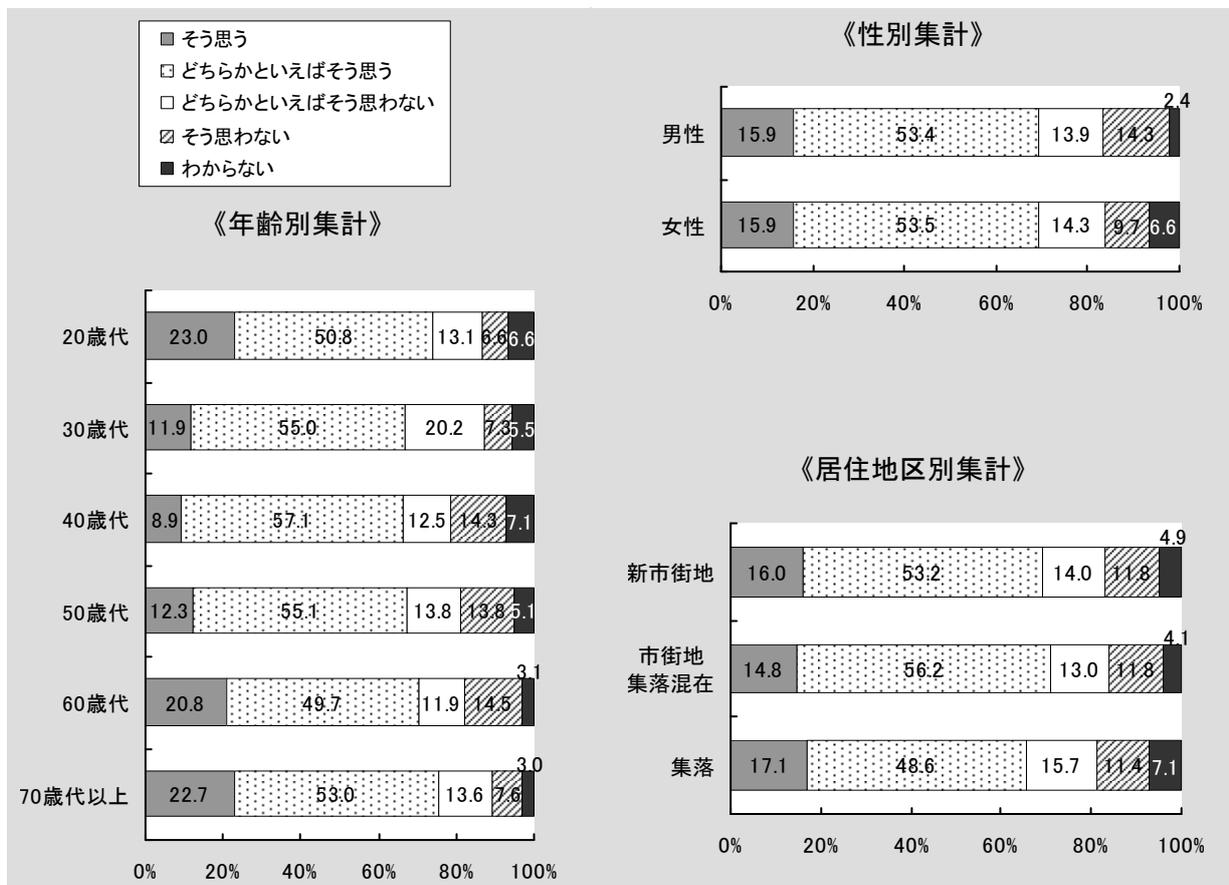
居住区別では、新市街地で最も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、集落は低い結果でした。集落と、新たに造成された新市街地との自然環境に関する意識の違いが表れています。性別では、明確な傾向はみられませんでした。

(イ) 印西市は公害の心配も少なく、「安心して生活できる暮らし」をしている

回答数 648



【性別・年齢別・居住区別集計】



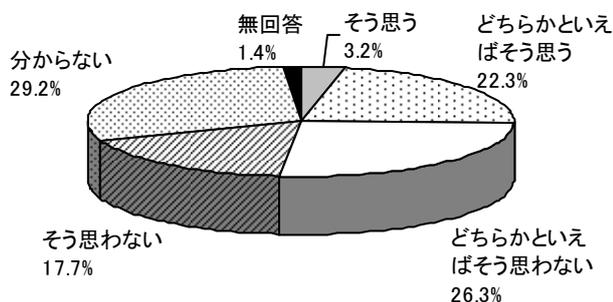
「(イ) 安心して生活できる暮らし」についても、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が68.5%となり、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(25.5%)を上回っており、目標を實現できていると感じる人が多い結果となりました。

年齢別では、20歳代及び70歳代以上では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」がやや高い結果でした。

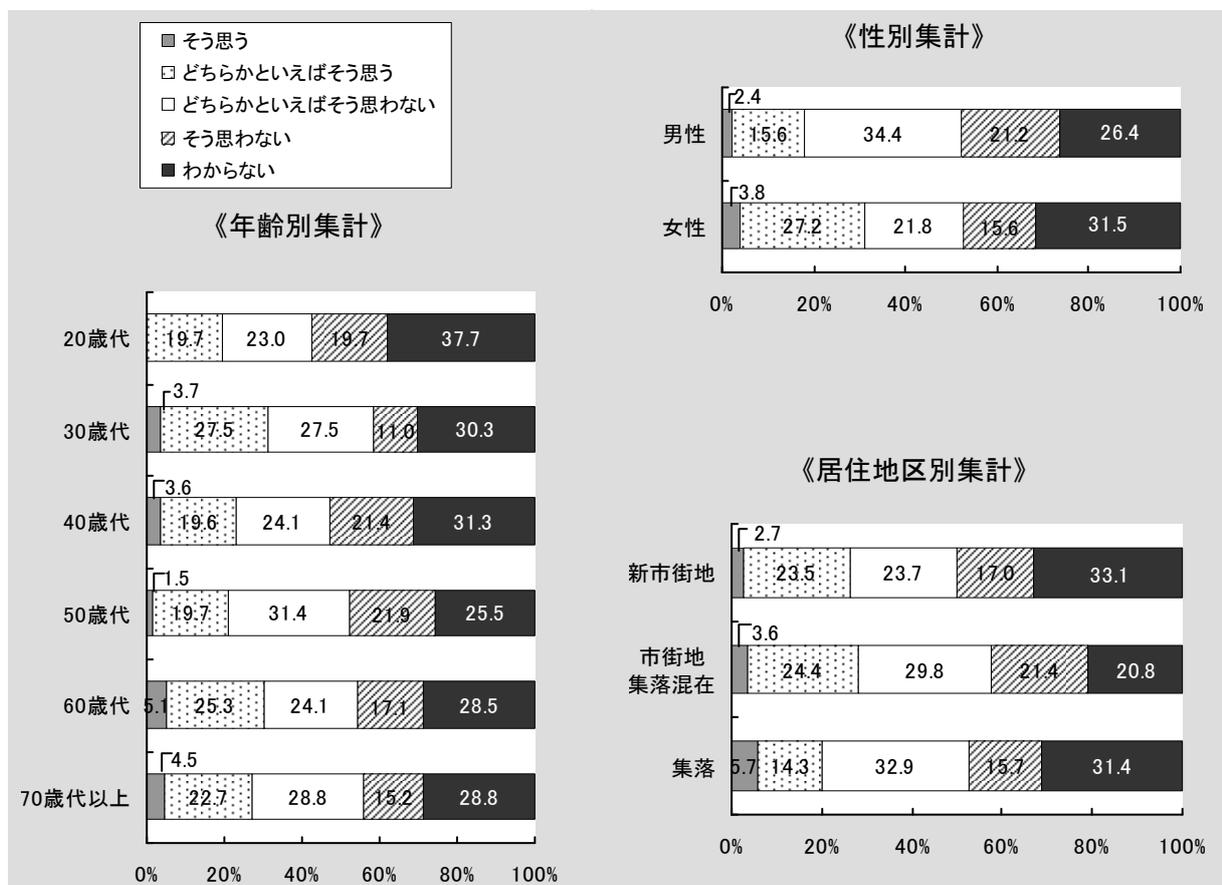
居住地区別では、新市街地と市街地・集落混在には大きな違いはみられませんが、集落はやや「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が低い結果でした。性別では、明確な傾向はみられませんでした。

(ウ)市民・事業者が参加・協働できる「みんなで環境を育てるしくみ」がある

回答数 646



【性別・年齢別・居住区別集計】



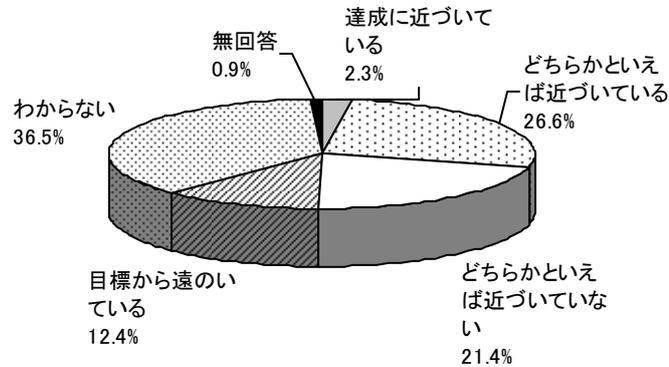
「(ウ)みんなで環境を育てるしくみ」では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が25.5%となり、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(44.0%)を下回りました。「わからない」の回答も29.2%と多く、環境問題について考えるきっかけや機会の提供が求められています。

性別では、女性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が31%で、男性(18%)より多い結果でした。年齢別、居住地区別では明確な傾向はみられず、無回答も多い結果でした。

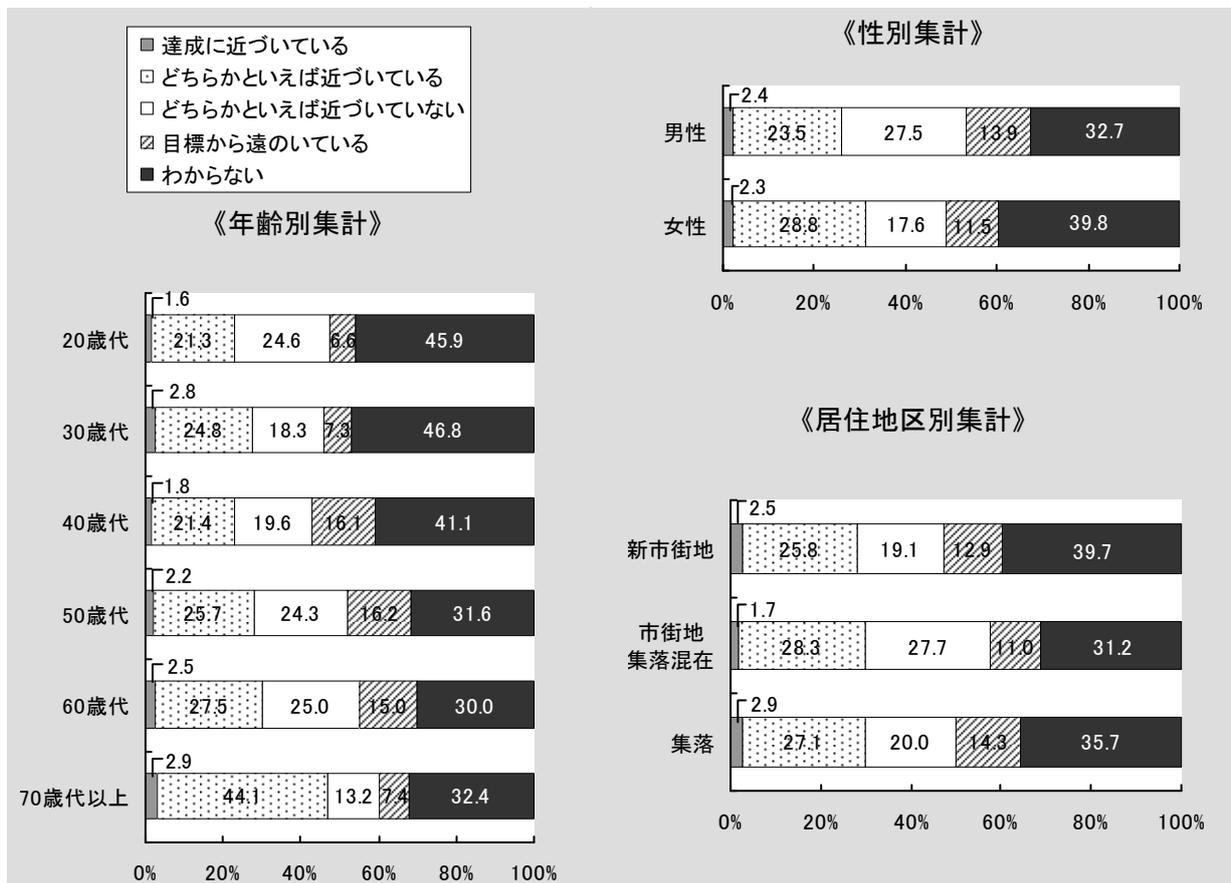
問4-3 お住まいの地域の環境が過去(5~10年前)と比較して目指す環境の姿の達成に近づいていると感じられますか。(1つ選択/5選択肢)

目指す環境の姿・・・「大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい」

回答数 649



【性別・年齢別・居住区別集計】



目指す環境の姿の達成度については、「達成に近づいている」と「どちらかといえば近づいている」の合計が28.9%となり、「どちらかといえば近づいていない」と「目標から遠のいている」の合計(33.7%)を下回りました。

性別では、女性は「わからない」の割合が多く、年齢別では若い世代で「わからない」が多い結果でした。70歳以上は達成に近づいている」と「どちらかといえば近づいている」の合計が47%で高い結果でした。居住地区別では明確な傾向はみられませんでした。

問4-4 問4-3で、「近づいている」、「近づいていない」を選択した理由を自由にご記入ください。

回答数 247

	主な内容	回答数
近づいている	里山・田畑等の緑、自然の豊かさが残っている	21
	整備・管理された街並み・景観(道路幅・歩道幅が広い等)	22
	生活利便施設・商業施設の充実	17
	花や緑ある公園、整備された公園	13
	地域活動が活発(環境、安全、防災等)	7
	変わっていない	4
	安心して住みやすい	6
	ポイ捨て・不法投棄等のゴミ回収	3
	閑静・のどかな環境	2
	その他	4
近づいていない	開発による自然の減少・環境悪化	49
	交通公害(渋滞、騒音、振動、排気ガス、安全面等)	25
	変わっていない	16
	放射能の不安(土壌の放置・除染の遅れ、情報不足)	14
	ポイ捨て・不法投棄	12
	街並み・景観整備の不足	11
	開発による野生・希少動物への影響(生態系への配慮)	11
	安心できる暮らしではない(犯罪の増加など)	8
	道路・公園・空地の管理不足(雑草、清掃等)	5
	生活利便施設の不足(商業施設、病院など)	5
	開発・活性化の遅れや地域格差	5
	道路整備不足(交通標識、舗装、雨排水等)	5
	休耕田・耕作放棄地・遊休農地の増加	5
	風害(高層マンション、土埃、倒木、落葉等)	4
	ごみ焼却施設(焼却灰、排煙、立地・移転)	3
	公園施設・設備の不足(ベンチ、遊具、トイレ)	3
	上下水道の不足(下水の悪臭、水道管の整備)	3
	ゴミ収集関係、ごみ出しマナー	3
	モラルの低下(ペット、庭の手入れ)	2
	公共交通への不満(高額運賃、バス停の距離)	2
	薬剤の散布(除草剤、防虫剤)	2
	外来動物や有害鳥獣等の駆除や対策	2
	良い環境ではない	2
個人の認識が低い	2	
その他	10	

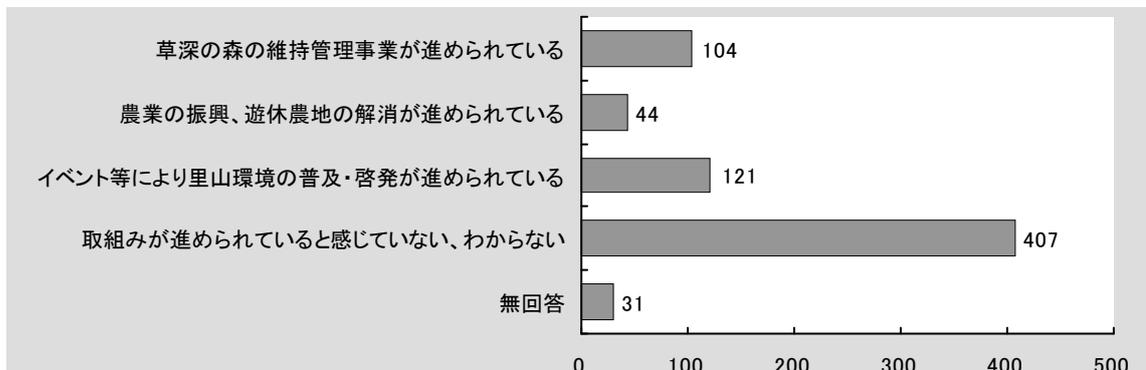
「近づいている」理由としては、里山や田畑などの自然環境や、公園や道路、まちの整備などが多くあげられました。

「近づいていない」理由は様々であり、最も多かったのは開発による自然環境の悪化、次いで渋滞や騒音振動など交通に関する公害があげられました。都市開発により暮らしが便利になる一方、過去より環境が悪化してしまったと考える意見が多く寄せられました。また、放射能に対する不安も多くあげられました。

5 重点プロジェクト(重点的に実施する取組み)について

問5-1 市内に残る里山の保全と活用を進める市の取組みについて、どう考えていますか。

回答数 676 (624人)



【性別・年齢別・居住区別集計】

区分		施策が進められている回答した人の割合			
		草深の森の維持管理	農業の振興 遊休農地の解消	里山環境の普及啓発	わからない
性別	男性	15.4%	7.1%	17.8%	69.3%
	女性	17.7%	7.1%	20.4%	62.4%
年齢別	20歳代	13.1%	4.9%	3.3%	80.3%
	30歳代	16.5%	4.6%	17.4%	65.1%
	40歳代	15.1%	7.5%	23.6%	64.2%
	50歳代	15.7%	7.5%	17.2%	64.2%
	60歳代	17.9%	7.9%	27.2%	60.9%
	70歳代以上	23.3%	10.0%	18.3%	63.3%
居住区別	新市街地	17.1%	6.9%	19.4%	65.5%
	市街地・集落混在	13.5%	6.7%	21.5%	65.0%
	集落	22.4%	9.0%	13.4%	64.2%

※網掛けは各設問ごとに最も割合が高い区分を示す。

重点プロジェクト「1 里山の保全・活用に向けたしくみづくり」は、「取組みが進められていると感じていない、わからない」の回答が最も多く、市が実施している里山の保全に関する取組み状況やイベントの開催等について積極的なPRが必要とされています。

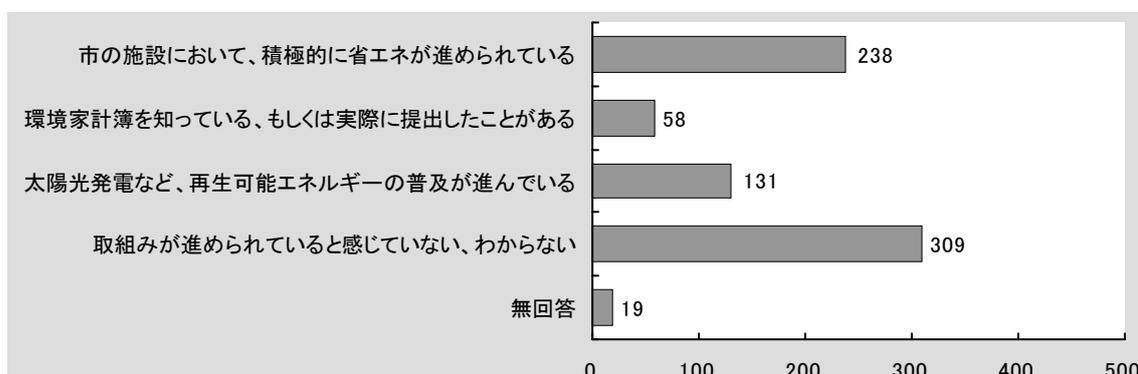
性別では、施策が進められていると回答している割合が、男性と比べて女性は高い結果でした。

年齢別では、20歳代の「わからない」の回答が8割となるなど、若い世代の認識が低い結果でした。

居住区別では、里山環境に近接する集落では比較的認識されている傾向がみられました。

問5-2 地球温暖化を防止のための市の取組みについて、どう考えていますか。

回答数 736 (636人)



【性別・年齢別・居住区別集計】

区分		施策が進められている回答した人の割合			
		市の施設の省エネ	環境家計簿	再生可能エネルギーの普及	わからない
性別	男性	32.2 %	5.3 %	17.6 %	57.6 %
	女性	41.0 %	11.7 %	22.6 %	42.6 %
年齢別	20歳代	29.5 %	4.9 %	14.8 %	57.4 %
	30歳代	38.5 %	11.0 %	25.7 %	42.2 %
	40歳代	34.5 %	10.0 %	25.5 %	47.3 %
	50歳代	38.2 %	10.3 %	19.1 %	49.3 %
	60歳代	39.2 %	9.8 %	19.6 %	50.3 %
	70歳代以上	43.8 %	4.7 %	14.1 %	46.9 %
居住区別	新市街地	38.3 %	8.3 %	20.6 %	50.1 %
	市街地・集落混在	37.7 %	12.0 %	18.6 %	46.1 %
	集落	32.8 %	6.0 %	26.9 %	44.8 %

※網掛けは各設問ごとに最も割合が高い区分を示す。

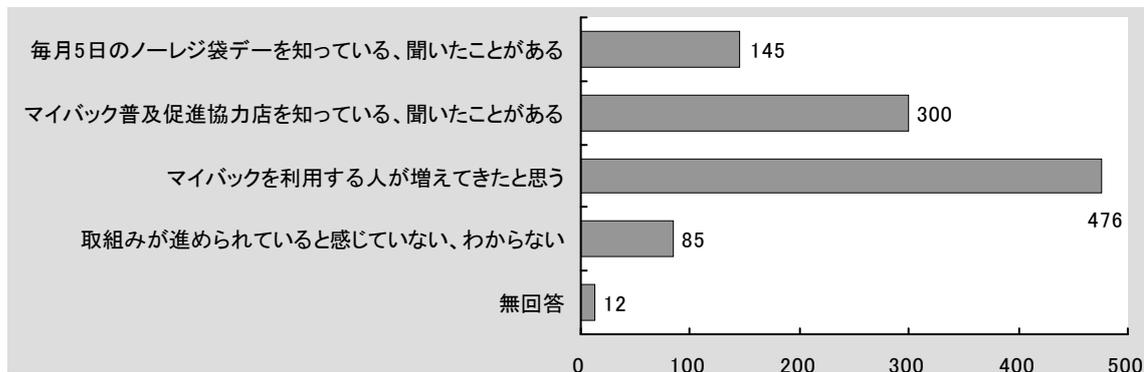
重点プロジェクト「2 地球温暖化対策の推進」は、「取組みが進められていると感じていない、わからない」の回答が最も多い結果でしたが、市の施設における省エネの取組みは比較的認識されていました。

性別では、施策が進められていると回答している割合が、男性と比べて女性は高い結果でした。

年齢別では、市の施設における省エネの取組みは、70歳以上で高い結果でしたが、環境家計簿と省エネルギーの普及については、30歳代を中心に比較的若い世代の方が認識されていました。居住区別では、明確な傾向はみられませんでした。

問5-3 マイバッグの利用を促進するための市の取組みについて、どう考えていますか。

回答数 1,006 (643人)



【性別・年齢別・居住区別集計】

区分		施策が進められている回答した人の割合			
		ノーレジ袋デー	マイバック普及促進協力店	マイバック利用者の増加	わからない
性別	男性	10.6%	41.1%	57.7%	26.0%
	女性	30.2%	50.1%	84.4%	5.4%
年齢別	20歳代	13.1%	39.3%	78.7%	16.4%
	30歳代	22.9%	44.0%	77.1%	9.2%
	40歳代	21.8%	42.7%	75.5%	13.6%
	50歳代	22.1%	54.4%	77.9%	5.9%
	60歳代	20.4%	45.2%	70.7%	18.5%
	70歳代以上	37.3%	50.7%	62.7%	19.4%
居住区別	新市街地	23.0%	46.3%	77.5%	12.4%
	市街地・集落混在	24.4%	49.4%	67.9%	15.5%
	集落	16.2%	41.2%	67.6%	13.2%

※網掛けは各設問ごとに最も割合が高い区分を示す。

重点プロジェクト「3 マイバッグの利用促進」は、ノーレジ袋デーやマイバック普及促進店の状況も認識されており、マイバッグの利用者も増加していると感じられていることから、取組みに一定の評価が得られました。

性別では、施策が進められていると回答している割合が、男性と比べて女性は高く、買い物に行く機会の多い女性の認識が高いことが顕著でした。

年齢別、居住区別では、明確な傾向はみられませんでした。

6 環境行動への取組みについて

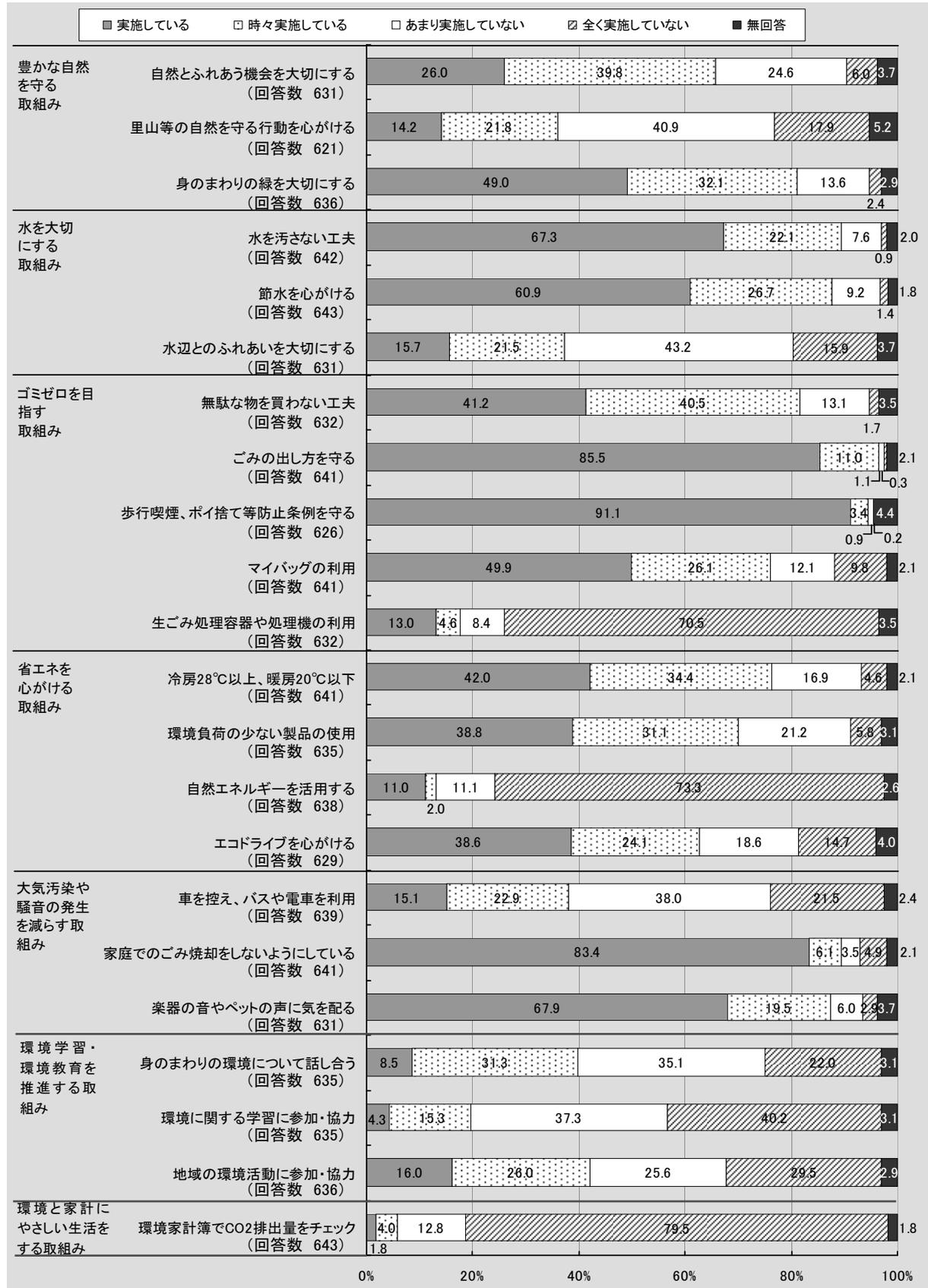
環境行動への取組み状況（次頁参照）を見ると、「歩行喫煙、ポイ捨て防止条例を守る」「ごみの分け方や出し方を守る」「家庭でのごみ焼却をしないようにしている」「ピアノや音響機器の使用、ペットの鳴き声に気を配る」「調理くずや油を排水に流さない等、水を汚さない工夫をしている」「水を流したままにせず、節水を心がけている」の6項目で半数以上の方が「実施している」と答えており、日常生活の中で環境を意識した行動が定着していました。

また、「自然エネルギーを活用する」「エコドライブを心がける」といった行動も「実施している」の割合が増加しており、省エネ意識が高まっていることがわかります。

一方、「環境学習・環境教育を推進する取組み」や「環境家計簿をつけて、環境にも家計にもやさしい生活をする取組み」の実施割合は依然として低く、引き続き環境活動への参加促進を図っていく必要があります。

問6 環境の行動について、あなたは普段以下のようなことを行っていますか。

(各1つ選択/4選択肢)



7 自由意見

問7 印西市の環境に関するご意見、ご要望、及び取組みを進めるにあたってのアイデアなどがあればご記入ください。（記述式）

回答数 277 (198人)

分類(意見数)		主な意見
交通 (47)	道路整備 (30)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 歩道が広いと、自転車がかなりのスピードで走っているのが怖い ➢ 大型商業施設開業による道路渋滞・混雑をさけるような道づくりを検討して欲しい ➢ 交通事情が深刻、住民の安全を第一に考慮すべき ➢ 国道464号の橋上右折レーンの混雑で464号を一度通り過ぎてからUターンする車が増えたので、Uターンできないようにするか迂回路の案内をして欲しい ➢ 道路ののり面や歩道の草刈を定期的にして欲しい ➢ 464号の新道路(線路横)への閉鎖された途中入口を開放して欲しい ➢ ジョイフル本田前の通りの混雑緩和 ➢ 歩道や街灯整備(木下、木刈、中央、牧の原、滝野、小倉台、原山) ➢ ハイキング・サイクリング・ランニングコースなどの整備 ➢ 県道臼井印西線の印西から臼井に向かう道路の混雑緩和 ➢ 道路修理、白線が消えているので事故につながる
	公共交通 (17)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 公共交通が不便で、車社会になっている ➢ バスの本数、時間帯、ルートを改善してほしい ➢ 北総線運賃について、市民を巻き込んだ引き下げに向けての活動 ➢ バス路線が無理ならレンタサイクル制度を作る
自然環境 まちの緑 (41)	里山環境 (11)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 草深の森だけではなく、印西市には残して欲しい里山の景色がたくさんある、商業施設はもう充分 ➢ 自然が多いから印西市に引っ越して良かった、自然を守っていきたい ➢ 里山は印西市の誇るべき地域資源 ➢ 本当に自然を守るなら本来の自然の営みに帰ること、すなわち山林・農地そのものが残るような施策を講ずることが必要 ➢ 長い目で見れば、今さらの宅地造成より自然公園などにした方が何倍も地域復興になる ➢ 雑木林等の緑地を保全するため、税の減免等で指定する ➢ 里山の定期的管理 ➢ 里山の木の手入れやの農業を会社組織でやれないか
	都市緑化 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ “印西は緑豊か”とよく言われるが、NT地区においては本当の意味での自然はもうあまり残っていないと感じる ➢ 街路樹の落葉、日当たりの問題がある。手入れを行って欲しい ➢ 緑が多く町全体がきれいで住みやすい ➢ 新しい道路や住宅街には緩衝緑地を設けて欲しい、幹線道路沿いにもっと緑が欲しい ➢ 街路樹として桜並木を多く作って欲しい ➢ 草木の手入れをこまめに行って欲しい ➢ 公園や緑地帯に美しいつつじ等植えてあるが、剪定の時期が悪い為に全く花を楽しめない所があり、剪定期間には配慮して欲しい ➢ 造成地の草むらにヒバリやヨシキリなど見かける、出来れば草刈りなど巣立ち後にして欲しい ➢ 空地や歩道の雑草が多すぎる、アルバイト募集したらどうか ➢ 駅近くの空地に木などを植えて欲しい

分類(意見数)		主な意見
自然環境 まちの緑 (つづき)	自然との共生 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 開発を強行せず、貴重な自然を保全してほしい ➢ 道路で動物が轢かれているのをみかけると、生息場所がなくなっているのではないかと心配 ➢ 手賀沼や亀成川のように身近に野鳥の子育てが見られる場所は貴重なので、これからも守られるべき ➢ 希少な生き物がたくさんいるまちづくり ➢ 生活はしやすくなっているが、自然と人が共存できる街づくりを続けてほしい
	その他 (13)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 仕事が終わって東京から帰ると空気がおいしくてほっとする、いつまでも大切にしたい自然、印西の宝 ➢ URの開発、そうふけっばらの宅地造成 ➢ イノシシ、外来生物への対応 ➢ 毎年秋に開催されていたコスモス祭りを続けて欲しい ➢ モアの道路をへだてた所でのコスモス畑を再開して欲しい ➢ 自然が大切だという事はよくわかるが、高花は本当に虫が多く、通学路にたくさんの毛虫がいたり、夏はセミがすごい ➢ 街路樹に害虫がいるかいないかに関係なく農薬散布するのは考えて欲しい、最近は家庭菜園も多く無農薬の家もある ➢ 旧村落と新興地の住民の意識はかなり違う、村人達は昔からの習慣で環境については無意識でも大切にしている
都市環境 まちづくり (36)	都市開発 (26)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 商業施設や道路を作って自然をこれ以上壊さないで欲しい、印西の価値が下がってしまう、自然が多いから住んでいる人もいなくなってしまう ➢ 経済優先で自然を破壊してしまわないようお願いします ➢ 開発により凄い砂ぼこりで危険 ➢ ダンプカーなどが土をこぼしたり危険な運転をしていることが度々あったので何とかして欲しい ➢ 新しい団地の周りばかりに金をかけているような気がする ➢ うまく緑を残せているので、このまま便利な商業施設との共存ができればと思う ➢ 環境に害を及ぼさない(やさしい)様考えている所が素晴らしい ➢ NT 中央駅周辺の里山整備状況を旧印旛村にも早く進めて欲しい ➢ 環境改善は市の中心部だけで進められても意味が無い、隅々まで整備・開発を行き渡らせて欲しい ➢ 閉鎖したショッピングモールなど、建物だけ残されているのが気がかり、治安維持の為に壊すか造りかえて活用するかにして欲しい
	遊休農地 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 遊休農地を民間業者に委託し、開放して欲しい。個人の土地が荒れ放題なので、行政が持ち主に整備を促してほしい ➢ 遊休農地を市民農園として活用できるようにして欲しい ➢ 農業に興味を持っている若い世代にきっかけを与えるような広報をすると良い
	駅前整備 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 駅の駐輪所の音がうるさい、もっと静かに置けないか ➢ NT 駅敷地(空地)の有効活用 ➢ NT 駅前や牧の原駅前など、高齢者に優しい町とはいえない(商店街などの歩いて行ける場所が欲しい)
	都市景観 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境は自然と町並みの景観が重要だと思う ➢ 牧の原駅のそばの並木道の木の枝が切られており、景観が悪い

分類(意見数)		主な意見
環境教育 環境学習 参加・協働 (33)	情報提供 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境基本計画や、市の環境に関する取組みや現状について、もっと分り易く市民に情報提供 ➢ 市民にもわかりやすい言葉で、自治会を通じた宣伝活動を行った方が良い ➢ 広報誌は読みやすいので市民も協力しやすい ➢ 計画を作るだけで、市民に伝わっていない ➢ もっとふれあいバスを利用推進する為の宣伝活動を行う ➢ 市が目標としている自然環境の姿・都市型のビジョンというものを具体的に出して説明して欲しい ➢ 自然環境保護についての情報が欲しい ➢ イベントの告知をもっと分かるようにして欲しい ➢ 花粉情報や PM2.5 情報など基準値を決め、ネットでなくマイクで流して欲しい ➢ 環境に対する情報に接する事がなく、どんな事をしているのか目にする機会が少ない。興味のない人達も興味を持てるような工夫が必要 ➢ 資源物の分別等で収益になっているのかが知りたい ➢ 時々は広報車を見たい
	イベント (7)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 里山ツアー等を全市民挙げて行う、里山を活用したウォーキング ➢ 若者が気軽に参加できる自然教室や農業体験イベント(Facebook を活用) ➢ 親子で参加できる遊びながら学べる環境イベント ➢ 学校・町内会などでコスモスの種をまいて、大きなコスモスの森公園をつくる ➢ 市内のゴルフ場を1箇所年1回市民に開放しイベントを行う ➢ ゴミゼロ運動の時は中学校の部活などを休みにして皆で参加するしくみをつくる
	環境教育 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学校などで子供が環境問題にふれる機会を増やす ➢ 学校に生ゴミ処理機をおいて、総合学習に活かす ➢ 子供達にポスターなどを作ってもらい、町内の掲示板に貼る ➢ 50代の親世代が知っている計画でも、子供に伝わっていない ➢ 牧の原の原っぱを市で買い上げ、環境学校を行う
廃棄物 (14)	廃棄物処理 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 小型家電回収による都市鉱山のリサイクル ➢ 住宅密集地域でのごみの焼却 ➢ 植木を袋に入れず紐で束ねただけで出す人がいてごみ置き場が汚れて困る ➢ 幹線道路のゴミ集積場所に駐車スペースを設置 ➢ 紙リサイクルのため、専用の袋を作った方が浸透すると思う ➢ 定年退職者のボランティアを募り、不法投棄定期巡回をお願いする ➢ ペットボトルのキャップの回収場所が少ない、それがどういう風にリサイクルされているのかが知りたい
	生ごみ堆肥化 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 畑で野菜を作っているのので、生ごみは肥料にしている ➢ 生ごみを肥料に変えるための補助金や、肥料を家庭に還元する
	クリーンセンター (3)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ゴミ処理施設について早急に結論を出すべき ➢ ゴミ焼却場を駅から離れた所に移動してもらいたい

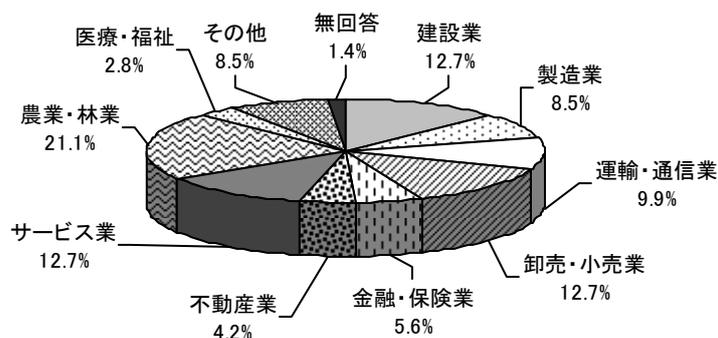
分類(意見数)		主な意見
行政への要望 (24)	アンケート (6)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ このアンケートを紙ではなく電子化すべき ➢ アンケートを作成・回収・統計を行う時間と費用を費やすよりも、イベントなどの実施で少しずつ関心を持ってもらう方が良い ➢ 環境問題と漠然と聞いている、税金の無駄遣い ➢ 環境問題に対して興味・関心が更に深まった ➢ 市の取組みをあまり知らず、もっと市政に関心を持つべきだと反省するきっかけになった
	その他 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 必要な取組みを柔軟に行い、優先順位をつけて取り組むべき ➢ 環境を保全する仕組みとして、地域指定や補助金制度を増設 ➢ 放置自転車は他人が盗んでちょっと乗り、乗り捨てられたものであるので、取締りをしてもらえないか ➢ 環境保全課だけが取り組むのではなく、都市計画課や農業関係課・まちづくり推進課などが役所の中で取り組むべきである ➢ 積極的に協力できるよう地域ごとに力を入れた働きかけが必要
まちの美化	(12)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ゴミゼロ運動を徹底、住民全員参加化、近隣をきれいにしアイデア賞など競わせる ➢ パチンコ店等を利用している客がコンビニ等のゴミをポイ捨てしている ➢ 歩行喫煙・ポイ捨て禁止条例を市内全域に設ける ➢ 犬の散歩にフン処理を持たない人が多い、空地でさせている
生活環境	(11)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 車の渋滞により大気汚染悪化 ➢ 大気汚染や騒音の大きな原因となりそうな大型車は、市民ではなく市外の人が通過しているように思える ➢ 深夜のバイク・車の騒音・振動 ➢ 飲み水に適さない地域の上水道整備
公園・遊び場	(10)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 六合地区に公園を作って欲しい ➢ 印旛沼周辺の環境を一段と向上して水辺で遊べるようにして欲しい ➢ 県立花の丘公園の規模を大きくし、陸橋で行き来が出来る様にする ➢ 公園や遊具(健康器具ではなく、アスレチック・ブランコなど)を増やして欲しい ➢ 他県からも人が来るような大きな公園が欲しい ➢ 公園の木を生やしすぎると、目隠しになって犯罪につながりやすいので、マメに手入れをして欲しい
放射能関連	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中途半端な除染はやめて欲しい ➢ 放射性廃棄物の受け入れは、断固拒否して欲しい ➢ 早急に他地域のガレキをきちんと受け入れて下さい ➢ 公園に置かれた放射線量の高い土にカバーが掛けられているが、被られたりめくられたりしている

事業者意識調査の結果

1 事業所の属性

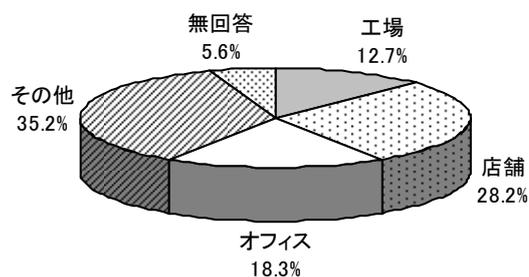
問1-1 貴事業所の業種は何ですか。(1つ選択/11選択肢)

回答数 70



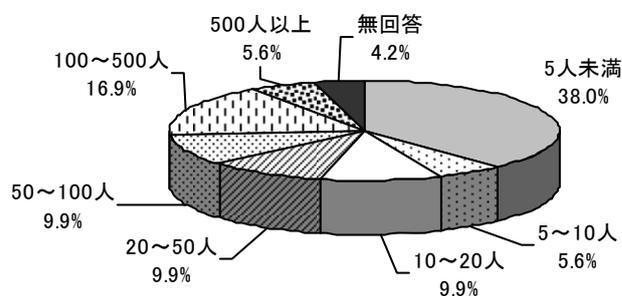
問1-2 貴事業所の事業形態は何ですか。(1つ選択/4選択肢)

回答数 68



問1-3 貴事業所の従業員数は何人ですか。(1つ選択/7選択肢)

回答数 68

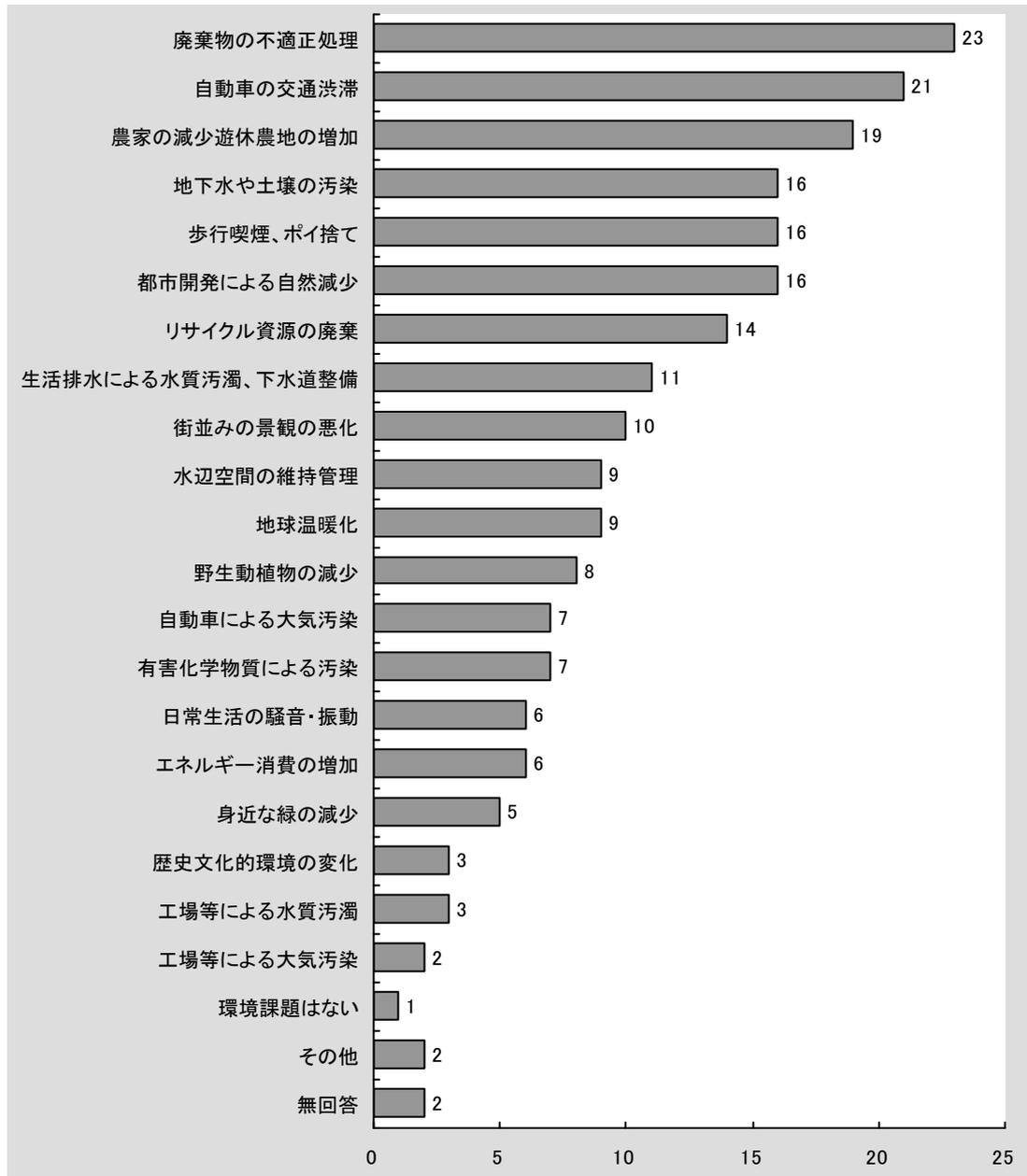


2 市内の環境について

問2 貴事業所では、印西市が早急に取り組むべき環境問題は何だとお考えですか。
(複数選択/22選択肢)

回答数 214 (69社)

※「その他」を選択した事業者(2社)は交番が少ない、イノシシの増加を防ぐ



印西市が早急に取り組むべき環境問題としては、「不法投棄などの廃棄物の不適正な処理」が最も多く選ばれ、市民意識調査と一致しました。次いで「自動車の交通渋滞」が多く、近年の大型商業施設出店による影響が考えられます。

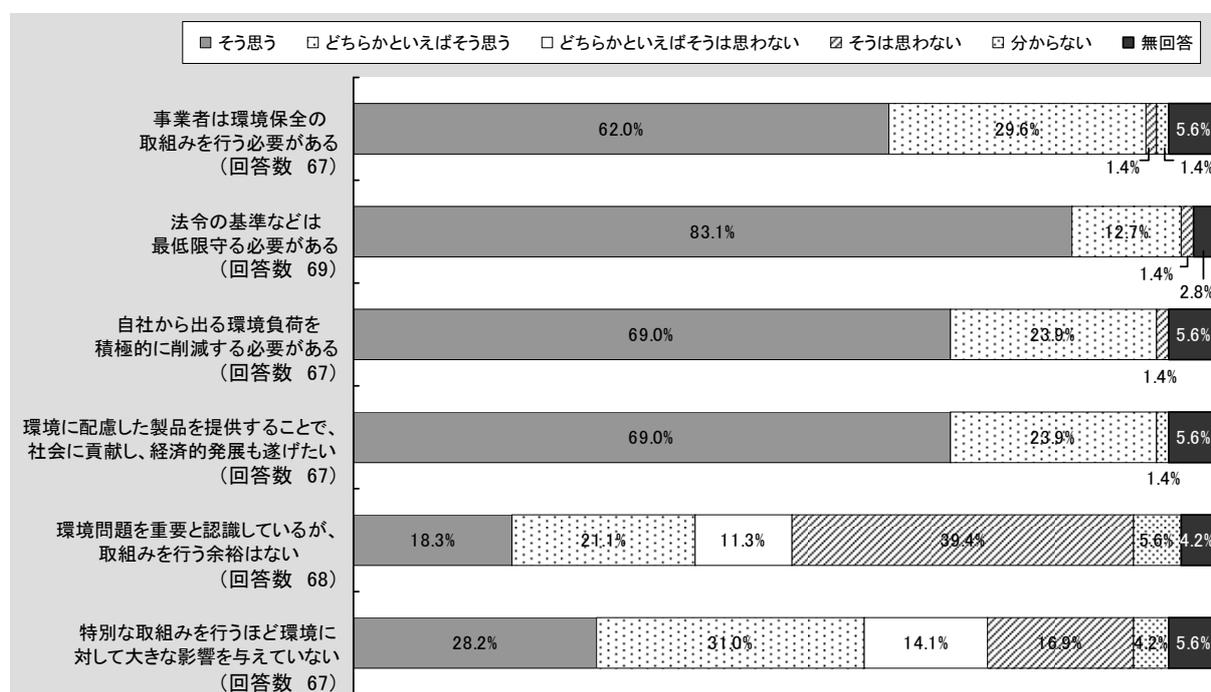
【経年変化】

	1位	2位	3位
平成 15 年度	不法投棄・ポイ捨て (40.9%)	河川水質の浄化 (32.9%)	里山の保全・活用 (25.1%)
平成 19 年度	不法投棄など廃棄物問題 (40.8%)	都市開発による自然の減少 (33.8%)	自動車の交通渋滞 (31.2%)
平成 24 年度	不法投棄など廃棄物問題 (40.2%)	自動車の交通渋滞 (30.4%)	農家の減少・遊休農地増加 (27.5%)

設問項目が年度により異なっていますが、1位は全て不法投棄に関する項目でした。平成 19 年度、平成 24 年度は「自動車の交通渋滞」も多くなっていました。また平成 24 年度は「農家の減少・遊休農地の増加」が 3 位でした。

3 環境問題に対する認識について

問3-1 貴事業所では、環境問題についてどう考えますか。（各1つ選択／5選択肢）

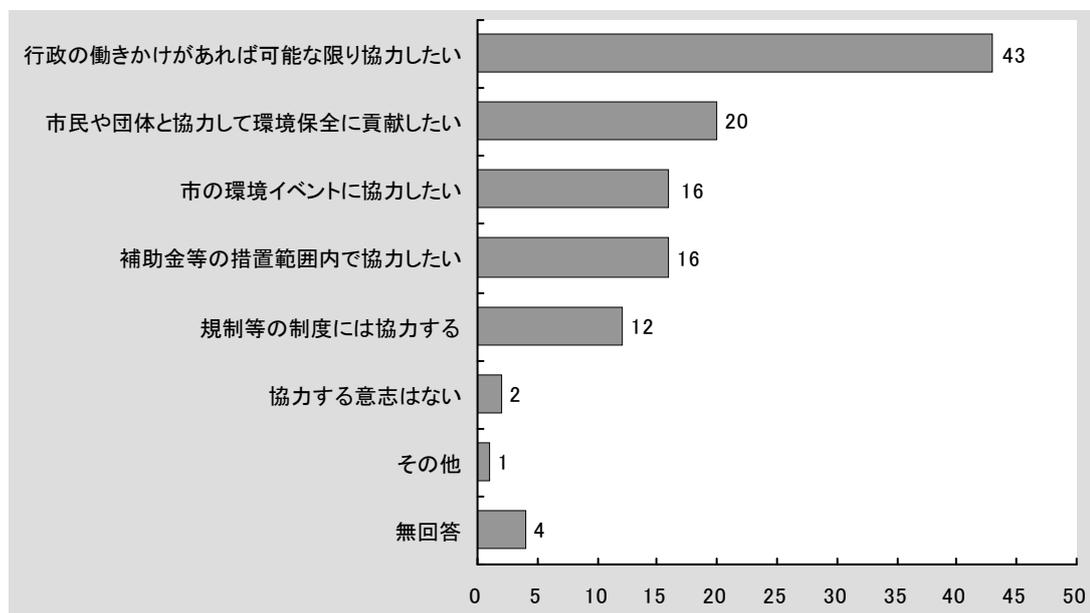


環境問題に対する考え方については、「事業者は環境保全の取組みを行う必要がある」「法令の基準などは最低限守る必要がある」「自社から出る環境負荷を積極的に削減する必要がある」「環境に配慮した製品を提供することで、社会に貢献し、経済的発展も遂げたい」といった設問に対して、「そう思う」か「どちらかといえばそう思う」と答えた事業者が 9 割以上に上り、多くの事業者が事業に伴って発生する環境負荷の影響やそれに対する責任を認識しています。

一方で、「環境問題を重要と認識しているが取組みを行う余裕はない」という設問では約 4 割、「特別な取組みを行うほど環境に対して大きな影響を与えていない」という設問では約 6 割の事業者が「そう思う」か「どちらかといえばそう思う」と答えており、事業規模や経済状況によって環境対策への取組みが異なっていると考えられます。

問3-2 貴事業所では、事業者が行う地域に対する環境活動についてどう考えますか。
(2つまで選択/7選択肢)

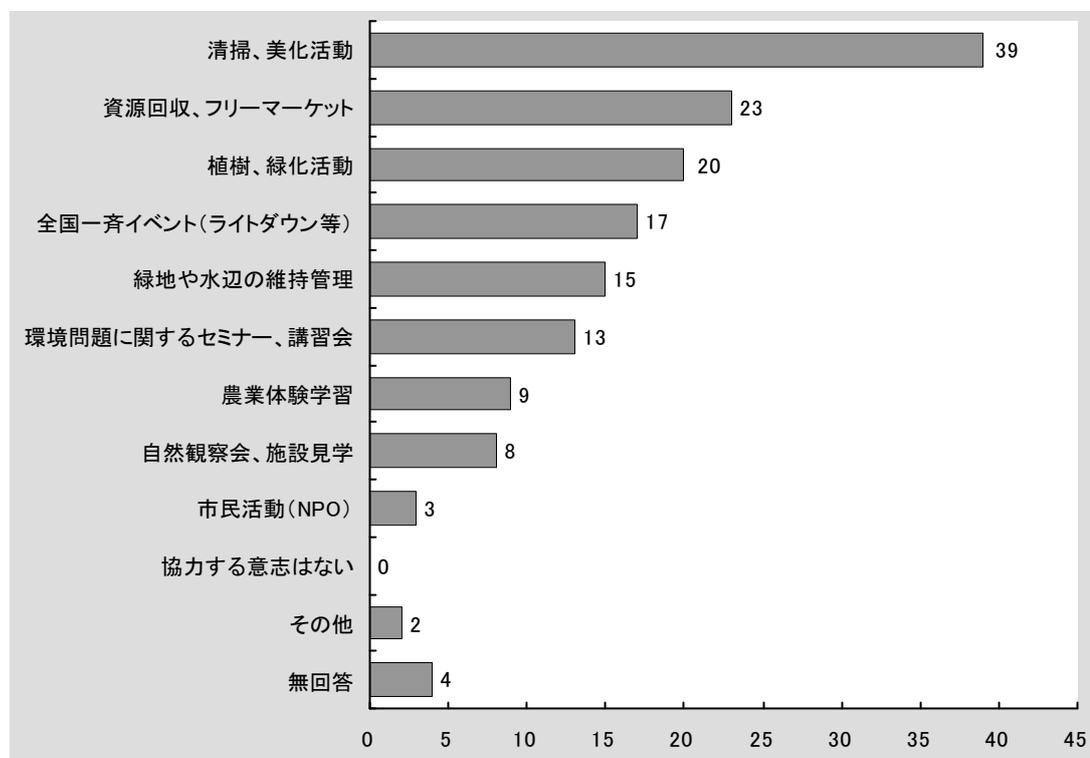
回答数 110 (67社)



問3-3 貴事業所で地域の環境活動に協力する場合、どのようなものに協力したいですか。
(3つまで選択/11選択肢)

回答数 149 (67社)

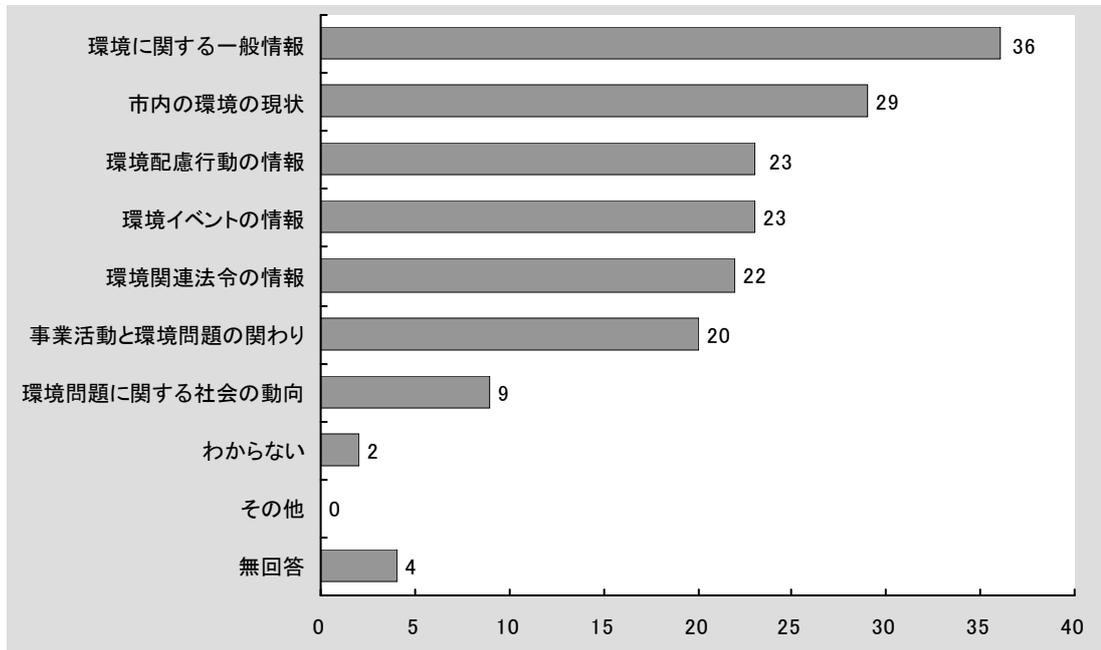
※「その他」を選択した事業者(2社)は都度検討したい、具体的案はなし



環境活動への参加意欲は高く、「清掃活動・美化活動」や「資源回収などのリサイクル活動、フリーマーケット」に協力したいという回答が多く得られました。

問3-4 貴事業所が、環境についてより関心を深めるためには、どのような情報が必要と考えますか。
(3つまで選択/9選択肢)

回答数 164 (67社)

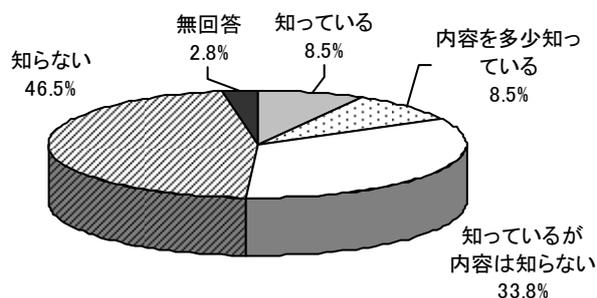


環境について関心を深めるために、「環境に関する一般情報」「市内の環境の現状」や「環境配慮行動の情報」「環境イベントの情報」「環境関連法令の情報」などの情報が求められています。

4 印西市環境基本計画について

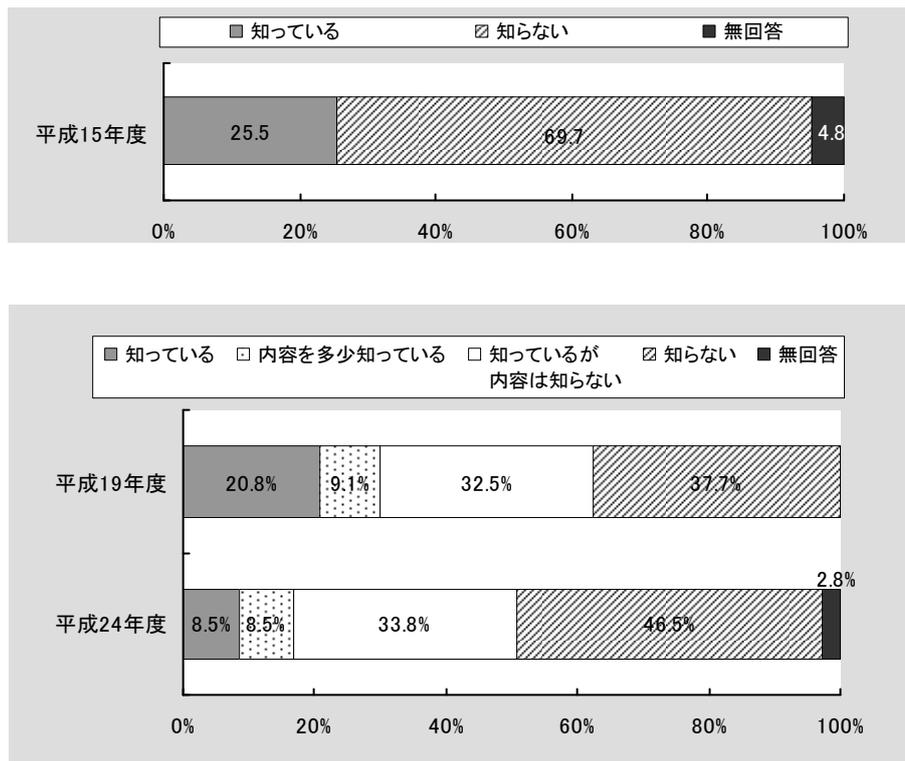
問4-1 貴事業所では、「印西市環境基本計画」をご存知ですか。(1つ選択/4選択肢)

回答数 69



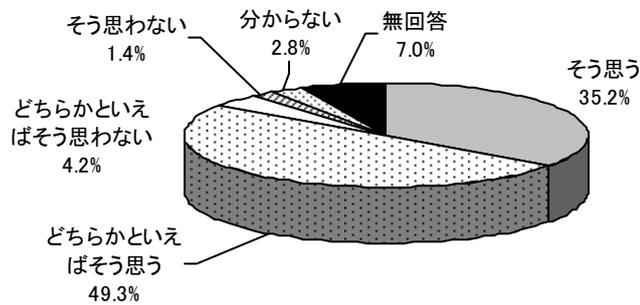
環境基本計画の認知状況は、「計画のことは知っている」「計画の内容を多少知っている」「計画は知っているが、内容はあまり知らない」の合計が 50.7% となり、「知らない」の 46.5% を上回りました。

【経年変化】

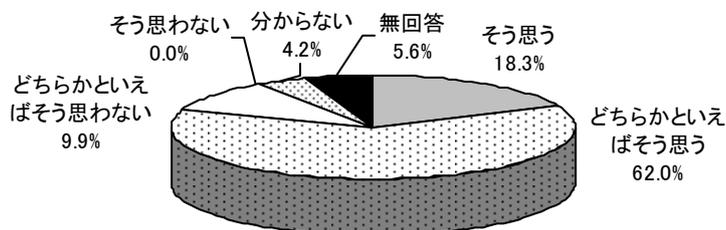


平成15年度と比較すると、環境基本計画を「知っている」割合（「知っている」「内容を多少知っている」「知っているが内容は知らない」の合計）が増加していました。一方、平成24年度は平成19年度の「知っている」の割合を下回っていました。

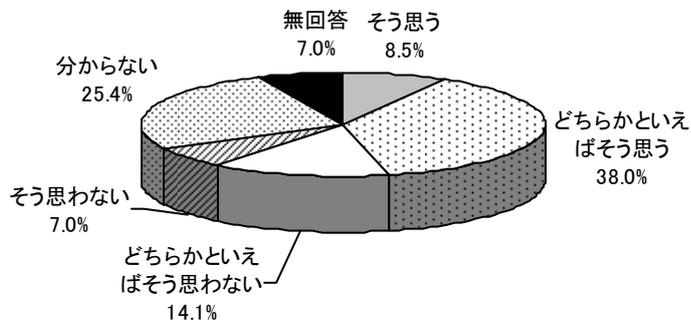
問4-2 印西市の環境についてどう考えていますか。(1つ選択/5選択肢)
 (ア)印西市は自然が保全され、「自然を身近に感じられるまち」である
 回答数 66



(イ)印西市は公害の心配も少なく、「安心して生活できる暮らし」をしている
 回答数 67



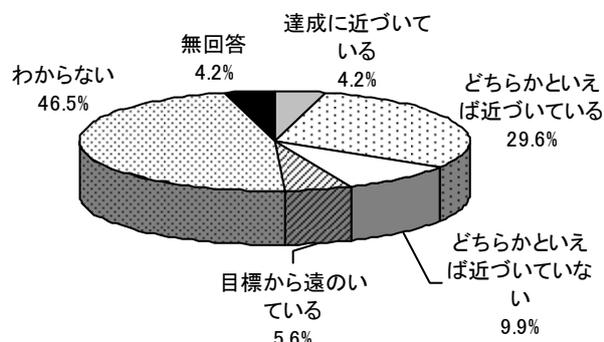
(ウ)市民・事業者が参加・協働できる「みんなで環境を育てるしくみ」がある
 回答数 66



環境基本計画の基本目標が達成できているかを問う設問では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が「(ア)自然を身近に感じられるまち」で84.5%、「(イ)安心して生活できる暮らし」で80.3%となり、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計を大きく上回っていました。

一方、「(ウ)みんなで環境を育てるしくみ」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が46.5%となり、「わからない」の回答も25.4%と多い結果となりました。この結果は市民と同様の傾向で、事業者に対しても環境問題について考えるきっかけや機会の提供が求められています。

- 問4-3 印西市の環境が過去(5～10年前)と比較して目指す環境の姿の達成に近づいていると感じられますか。(1つ選択/5択肢)
 目指す環境の姿・・・「大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい」
 回答数 68



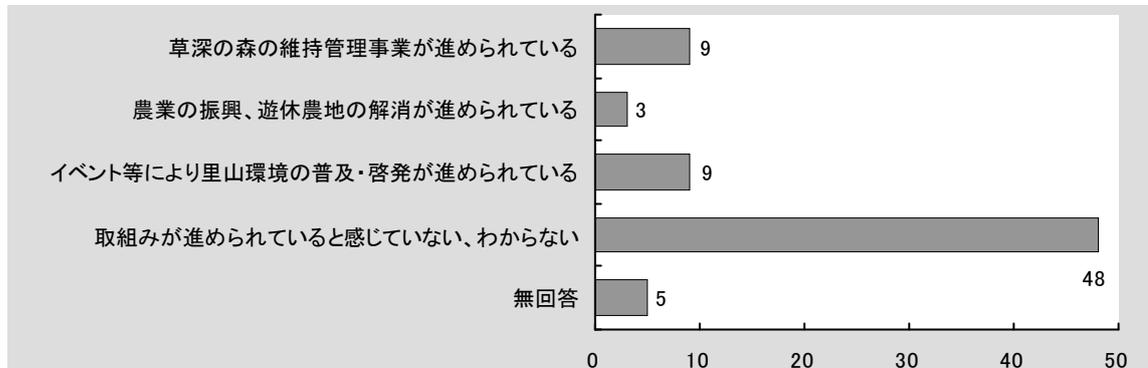
- 問4-4 問4-3で、「近づいている」、「近づいていない」を選択した理由を自由にご記入ください。
 (記述式)
 回答数 20

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> 市全体をあげての春・秋ゴミゼロ運動の推進、ごみ減量に力を入れている 都市計画がしっかりしているので、このまま進めて良い 竹林が荒れている 放射能問題 工場の建設 バランスが崩れている(電線地中化と聞いていた地区で、最近の開発では地上化) 多くの商業施設が増えて便利になった、住みやすい街とされている 交通環境が悪い イノシシによる被害、日常生活への悪影響 都市圏の中に自然が残されている 過去と比べて環境保全の意識が高まったと感じる、ゴミゼロ運動等の事業者参加も増えている

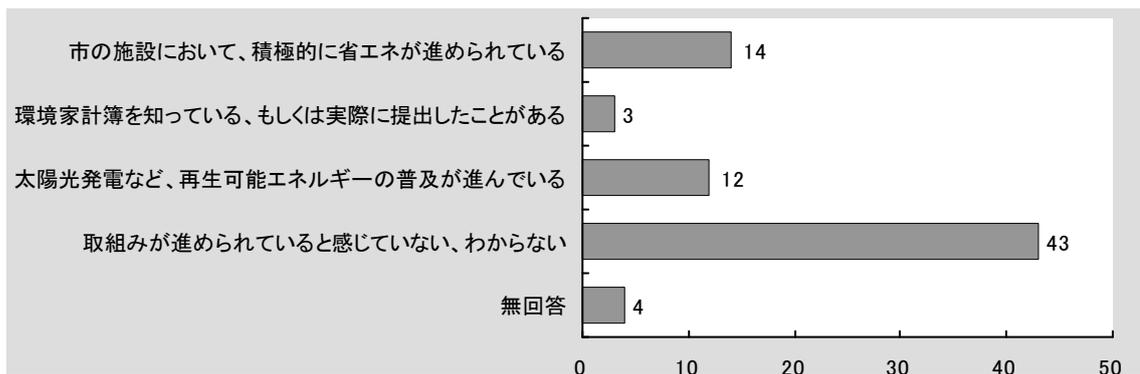
目指す環境の姿の達成度については、「わからない」の回答が46.5%と最も多くなりましたが、「達成に近づいている」と「どちらかといえば近づいている」の合計が33.8%となり、「どちらかといえば近づいていない」と「目標から遠のいている」の合計(15.5%)を上回りました。

5 重点プロジェクト(重点的に実施する取組み)について

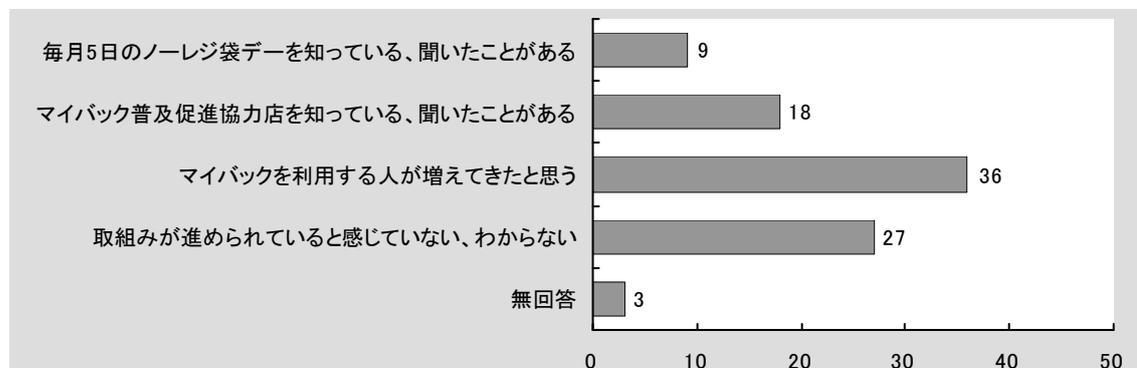
問5-1 市内に残る里山の保全と活用を進める市の取組みについて、どう考えていますか。
(1つ選択/4選択肢)
回答数 69 (66社)



問5-2 地球温暖化を防止のための市の取組みについて、どう考えていますか。
(1つ選択/4選択肢)
回答数 72 (67社)



問5-3 マイバッグの利用を促進するための市の取組みについて、どう考えていますか。
(1つ選択/4選択肢)
回答数 90 (68社)



重点プロジェクト「1 里山の保全・活用に向けたしくみづくり」と「2 地球温暖化対策の推進」は、「取組みが進められていると感じていない、わからない」の回答が最も多く、市の取組み状況について積極的なPRが必要とされています。

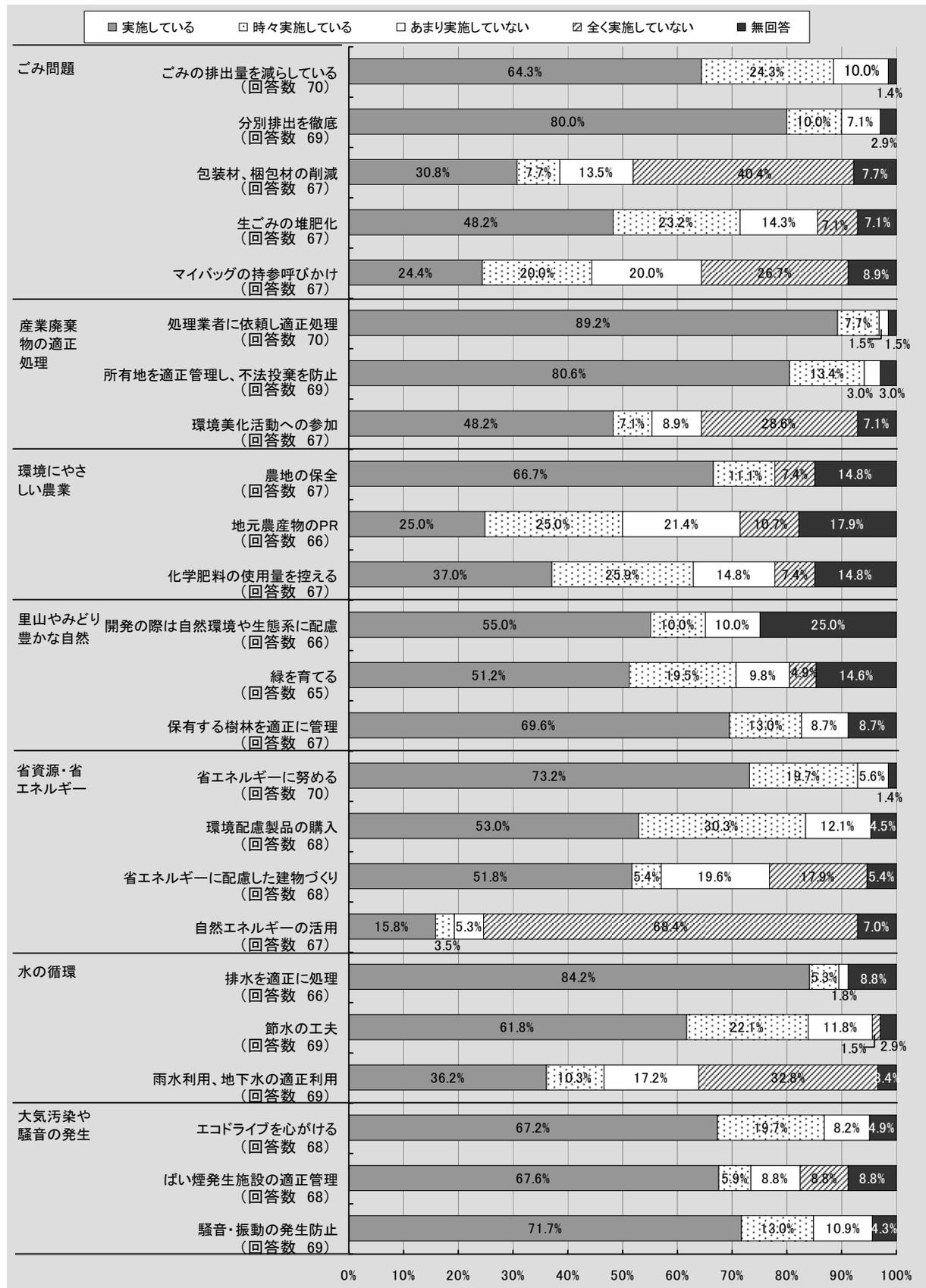
「3 マイバックの利用促進」は、半数以上の事業者がマイバックの利用者が増加していると感じられていることから、取組みに一定の評価が得られました。

6 環境行動への取組みについて

事業所における環境行動への取組み状況（次頁参照）を見ると、「ごみの分別排出を徹底」「産業廃棄物は処理業者に依頼して適正に処理する」「所有地を適正に管理し、不法投棄を防止している」は「実施している」と「時々実施している」の合計が9割以上であり、ごみ問題や不法投棄問題に関する取組みが定着してきたことがわかります。

また、「省エネルギーに努める」は近年の節電対策によって取組みが定着しつつあるようです。

問6 貴事業所では以下のような環境行動を実践していますか。(各1つ選択/4選択肢)



7 自由意見

問7 印西市の環境に関するご意見、ご要望があればご記入ください。（記述式）

回答数 6社

主な意見
<ul style="list-style-type: none">・ 印西市に里山を利用した総合自然公園を整備して欲しい・ 全国でも住みやすい町と印西市は評価され、地盤もしっかりしていて地震等も安心できる・ 駅周辺は都市化し整備されているが、その他は交通の便もなく寂しい・ 大型店に影響を受け、小さな商店は無くなっている・ 里山や水道にゴミの不法投棄が少なくなったが、まだ有る・ 住環境からの要望として交番を増やして欲しい・ 都市部の方が農村部の美化活動や清掃活動を実施しなければ、農村部の環境は維持できない